

第一百十號	坂波村大字高木村ヨリ北盤谷村大字内山村ニテ加賀國界ニ至ル
第一百十一號	津澤町大字裝輪村ヨリ城端町大字城端西上町ニ至ル
第一百十二號	福野町大字福野村新町ヨリ井波町大字井波八日町ニ至ル
第一百十三號	福野町大字福野村ヨリ井口村大字池尻村ニ至ル
第一百十四號	東山見村大字金屋岩黒村ヨリ利賀村大字下百瀬川村ニ至ル
第一百十五號	井波町大字井波八日町ヨリ平村大字大島村ニ至ル
第一百十六號	吉江村大字吉江中村ヨリ井波町大字山見村ニ至ル
第一百十七號	福光町大字福光村天神町ヨリ西太美村大字小院瀬見村ニ至ル
第一百十八號	吉江村大字高宮村ヨリ太美山村大字刀利村ニテ加賀國界ニ至ル
第一百十九號	東石黒村大字田尻村ヨリ南山田村大字是安村ニ至ル
第一百二十號	城端町大字城端西上町ヨリ平村大字大嶋村ニ至ル
第一百二十一號	南山田村大字上田村ヨリ上平村大字西赤尾町村ニテ飛騨國界ニ至ル
第一百二十二號	平村大字下梨村ヨリ上平村大字西赤尾町村ニ至ル
第一百二十三號	中田町大字中田町ヨリ般若野村大字小泉新村ニ至ル
堤防	
小川	布施川 片貝川
早月川	上市川 白岩川
熊野川	神通川 井田川
山田川	小矢部川 山田川
赤江川	荒川

二十三年四月四日正談

常願寺川 上流 岩崎寺ヨリ上流
 黒部川 愛本橋ヨリ上流
 波除
 海岸 瀧廻り
 第三條 前條道路ニ架スル平面或坪未滿ノ橋梁架換若クハ修繕費ハ補助ヲ請フヲ得ス
 但從來ノ道路ヲ改修スル場合ハ此限ニアラス
 ●告示第二十六號 明治二十三年三月十四日
 本縣々道左ノ通り假定ス

番號	等級	發着地	名
一號	一等	富山市大字富山越前町ニテ	富山縣廳ニ至ル
二號	一等	富山市大字富山西町ニテ	富山縣廳ニ至ル
三號	二等	富山市大字富山越前町ニテ	富山縣廳ニ至ル
四號	二等	富山市大字富山藤井町ニテ	富山縣廳ニ至ル
五號	二等	高岡市大字下關村ニテ	國道第二十號線ヲ岐ノ射水郡役所ニ至ル
六號	二等	高岡市大字高岡旅籠町ニテ	國道第二十號線ヲ岐ノ礪波郡役所ニ至ル

第十條 築堤ハ水面ノ勾配ニ因リ堤塘ノ勾配ヲ撰フヘシ其高サハ漲水ヲ支ルニ足リ其質ハ堅固ニシテ水ノ壓力ニ耐ユルヲ要スヘキモノナレハ專ラ外斜面ニ注意スヘシ故ニ單純ナル砂利堤塘ヲ築カント欲セハ適當ナル根堅ヲ要ス

第十一條 築堤ハ概テ石腹付亦ハ小段ヲ用ヘシ其主堤内斜ノ勾配ハ土石ノ浮落ヲ防クニ止メ外斜ハ即テ水ノ衝激スルモノナレハ勾配極メテ緩ナルヲ要ス故ニ外斜ノ勾配ハ通例チ一割七分乃至三割以下トシ敷堀ハ深一間以上二間以下トス石腹付横ハ一間以上三間以下トス小段ハ三尺以上二間以下トス下積ハ上積ノ横ニ從ヘシ

但實地ニ適應シ難キ場合ハ勾配等宜シク斟酌スヘシ然ルトキハ之レカ説明及ヒ現況ヲ畫キ設計書ニ添付スヘシ

第十二條 築堤ハ馬踏五間以下トシ十間毎ニ丁張ヲナシ其中央線ニテ直高ヲ取ルヘシ

第十三條 全石堤ヲ築カント欲セハ外斜ハ羽取石材ヲ撰フモ内斜ハ之レヲ撰フニ及ハス勾配モ亦之ニ準ス

第十四條 築堤馬踏五間以下ト雖モ舊堤ノ方向ヲ矯正シ自然馬踏ノ廣濶ヲ來スハ妨アテシ

第十五條 築堤ノ隅角ハ尖銳ニ造ラヌ都テ弧狀ヲ要ス

第十六條 土石採取ハ堤塘ヨリ十間乃至十五間川中ニテ採取スルヲ其トス

但川中ニテ採取シ不能場合ハ堤内ヨリ採取スルモ妨ナシト雖モ堤敷ヲ隔ルハ本項ニ全シ

第十七條 石羽取外斜勾配ハ其法巾ノ長短及質況ニ應シ法巾折半或ハ順次勾配ヲ異シ水ノ最モ激衝スルノ部分ハ極メテ緩ニシ石材モ亦大小区分スヘシ

第十八條 石材ハ面坪四箇乃至六十四箇トシ扣長ハ九寸乃至四尺トス

第十九條 敷堀砂利ハ主堤ノ盛砂利ニ用ヒ全石堤ナレハ堤内ヘ持テ運フヘシ

第二十條 築堤根堅メハ概テ左ノ諸色ヲ用ヘシ

合掌杵

角合掌杵

片法杵

籠

粗朶工

第二十一條 水列ハ常水面ヨリ僅カニ高ク漲水ニハ水中ニ入ルヲ度トシ其方向ハ流心ニ直角ニ刻出ノ長サハ實地ニ適應スヘシ其諸色ハ概テ左ノ如シ

但水勢最モ激衝シ著シキ變動ヲ生スルノ慮リアルモノハ宜シク斟酌スヘシ

辨慶杵

小辨慶杵

沈杵

中杵

小杵

大聖牛

中聖牛

川倉

籠

第二十二條 石出堤ハ圓形トシ馬踏ハ前項ニ全シト雖モ專ラ制水ニ供スルモノナレハ勾配極メテ緩ナルヲ要ス故ニ制限ヲ問ハス實地ニ適應スルヲ要ス

但石出堤ヲ設計スルトキハ之レカ説明及現況ノ略圖ヲ目録見帳ニ付スヘシ

第二十三條 制水ハ即チ水剝ニ付其間隔ヲ定ムルコト頗ル難シ故ニ先ツ之レヲ築キ水勢ヲ試ミ若シ其兩間ノ岸ヲ侵害スルヲ認ルトキハ其數ヲ加フヘシ

第二十四條 沙除堤ハ實地ニ適應シ馬踏及勾配等ヲ撰フヘシト雖モ成ルヘシ濱邊天然ノ勾配ヲ漸次ニ急ニシ内斜勾配ハ土石ノ濘落ヲ防シ止ムヘシ

第二十五條 突堤ハ實地ノ淺深怒濤ノ程度ヲ詳カニ宜シク其術ヲ施スヘシ

第二十六條 沙除棹類ハ概テ左ノ諸色ヲ用ヘシ
波除合掌棹
波除口明棹
鬼棹
片面棹

第三章 道路

第二十七條 凡ソ道路ノ改修々繕ヲ設計セントスルトキハ先ツ其改修及修繕スヘキ全線路ノ摸樣ヲ通檢シ彼是ノ難易ヲ見定メタル上一方ヨリ丈量シ敷砂利ノ厚薄幅員ノ區別アル毎コ杭ヲ打テ號ヲ逐ヒ漸次丈量任様ノ異別アル毎コ杭ヲ打入レ後覽ニ便スヘシ

第二十八條 凡ソ幅員ハ十間乃至二十間毎コ横間ヲ取リ之ヲ平均スルモノトス

第二十九條 敷砂利ノ厚薄ハ現在道路ノ地質及摸樣ニ依リ設計スヘシ格別泥濘ナル處ハ下敷栗石栗石トハ砂利ノ大ナルモノヲ云フ四寸已下敷キ以テ基礎ヲ堅固ニシタル上砂利ヲ敷シヘシ其敷砂利ノ厚サハ三寸已内トスヘシ

但山間又ハ日蔭等ニシテ常ニ日光ヲ受ケス濕氣アル地ハ栗石下ヲコ柳鹿朶ヲ敷キ水拔トスル

コアルヘシ

第三十條 市中ノ如キ兩側ニ人家ノ櫛比シタル處ハ人家ノ基礎ト路上ノ高低ヲ見定メ敷砂利ノ厚薄ヲ見積ルヘシ

第三十一條 川添又ハ海岸用水線高段等ニシテ道圍ヲ要スルケ所ハ可成永久ニ耐ヘキ石材ヲ用ユヘシ

第三十二條 並木敷アル道路ハ可成並木ノ際マテテ敷トスヘシ

但縣里道等ニテ並木際マテテ道敷トセサルモ實際差支ナシト認ルケ所ハ現場ノ摸樣ニ依リ適宜見積ヲ爲スヘシ

第三十三條 都テ敷砂利ハ一寸五分目籠ヲ以テ篩ヒ落シ一寸目籠ニ止マリタルモノヲ下敷砂利トシ八步目籠ヲ以テ篩ヒ落シ六步目籠ニ止マリタルモノヲ上敷トシ尙目潰シノ爲メ川砂ヲ敷交セ土一寸以内ヲ敷重タル上六步目籠ヲ以テ篩落シ四步目籠ニ止マリタル砂利ヲ敷均シ仕上トスヘシ

但地質ト往來繁閑ニ依リ篩籠目及本項順序ヲ變更スルトキハ之レカ説明書ヲ設計書ニ添付スヘシ

第三十四條 樹木又ハ人家ノ爲常ニ日光ヲ受サル陰鬱ナルケ所ハ敷土ヲ要セサルヘシ

第三十五條 都テ設計ノ際ニハ修繕ニ所用ノ砂利土砂其他石材等諸色ノ持運ヒ丁程等ヲ詳細取調タル上適當ノ代價ヲ見積ルヘシ

但内規ニ定價ノアルモノハ此限ニアラス

第三十六條 砂利ハ可成川砂利ヲ用ユヘシ山間等ニシテ極メテ川砂利ニ不便ナルケ所ハ堅實ナル巖石ヲ破碎シ之ヲ用ユルモ妨ナシ

第三十七條 砂利其他ノ運搬貨運搬里程ノ遠近舟車運ヒノ區別ニ依テ其價額ヲ定ムヘシ

第三十八條 砂利其他ノ貨錢ハ現場マテ持運ノ貨錢ヲ見積ルヘシ

第三十九條 砂利其他ノ運搬丁程及備目籠等荷モ受負人ノ心得トナルヘキモノハ洩サズ設計書ニ記載スヘシ

第四十條 設計ハ一町村毎ニ區別スヘシ若シ數町村錯雜シテ區別シカタク場所ハ立會トスヘシ

第四十一條 丈量器ハ可成連鎖又ハ竹繩等晴雨ニ依リ伸縮ナキモノヲ用ユヘシ

第四十二條 道幅ヲ廣ムルケ所ノ付添ニ用ユル土砂ハ可成砂利交リノモノ見積石垣又ハ杭等ヲ以テ土圍ヲ施スモノトス

但地質深沼等ニシテ沈落ノ恐レアルケ所ハ敷土蓋ヲ見積ルヘシ

第四十三條 道路ノ横斷勾配ハ三十分一即チ間ニ二寸トスヘシ

第四十四條 前條ノ外新道ヲ築設シ又ハ在來道路ヲ改修スルモノハ明治十八年内務省第十三號訓令ニ依ルヘシ

第四章 橋梁

第四十五條 凡ソ橋梁新架若シクハ架換ヲ設計セントスルトキハ先ツ延長幅員其他橋蓋ノ高サ横

巾水中深サ水勢ノ緩急川床ノ變遷等詳細取調尙出水最高度ノ如キハ土地人民ニ問知スヘシ

第四十六條 橋梁ノ幅員ハ可成道路ト同様ニ見積ルヘシ

但五間已上ノモノハ此限ニアラス

第四十七條 水勢急ナルカ又ハ舟楫烈シキケ所ハ桁間五間已上ニ見積ルヘシ

第四十八條 桁間四間以上ノ橋梁ニハ必ス肘木ヲ用ユヘシ

第四十九條 杭ノ根入ハ川床ノ地質ト水勢ノ緩急ニ依リ一定ナラスト雖モ凡三尺已上三間以内ヲ

度トス

第五十條 兩階橋臺土圍ヲ要スルトキハ可成石材ヲ用ユヘシ

第五十一條 橋梁三間以内ノモノハ橋杭ヲ要セス捨土蓋ヲ伏セ打渡スヘシ

但三尺以内ノ橋梁及繩管ノ類ハ可成石材又ハ土管ヲ以テ構造スルモノトス

第五十二條 行桁ハ長五間以上幅高欄内法三間ニ限リ五通リトシ幅九尺以上十四尺以内ノ小橋ナラハ四通ヲ施スヘシ

但通行車馬ノ繁閑又ハ橋ノ長短ニ依リ斟酌スルコトアルヘシ

第五十三條 都テ木材ハ草楨タルヘシト雖モ十四尺已上ノモノハ明檜杉檜等適當ノモノヲ用ユヘシ

但土地ニ依リ草楨運搬ニ不自由ナルケ所ハ栗規等ヲ用ユルモ妨ナシ

第五十四條 五間以上ノ橋梁ハ高欄付トシ桁均シ板ヲモ見積ルヘシ

但市中又ハ危險ノ恐レアルケ所ハ此限ニアラス

第五十五條 敷板二寸五分マテハ皆折釘ヲ以テ打付三寸板ヨリ手邊録ヲ以テ繋クヘシ

第五十六條 橋杭横筋違積ハ水勢ノ緩急ニ依リ一定シカクシト雖モ可成橋杭ハ穴指ヲ止メボールド締ニ積ルヘシ

第五十七條 橋ノ反リハ間三步ヨリ六步マテトシ橋ノ長短ニ依リ是ヲ定ムヘシ

第五十八條 橋ノ兩階コハ堅固ナル石材ヲ以テ踏掛石ヲ見積ルヘシ

但市中ノ如キ通行ノ繁シキケ所ハ兩階三尺已上敷石ヲ見積ルヘシ

第五十九條 高欄ノ高サハ橋梁ノ大小ニ依リ敷板上二尺已上四尺以内トス

第六十條 長五間已上ノ橋梁ナレハ古橋取毀テ仮橋架設諸職小屋掛足代ヲモ見積ルヘシ

羽取石モ復テ随テ大小ヲ區分スヘシ
 一 敷堀長何間
 此砂利何十坪
 惣合坪何百坪
 平均
 深何何
 上中何何
 下中何何
 間間

内
 何十坪
 何十坪
 何十坪
 何十坪
 但敷堀砂利ヲ使用スルトキハ盛砂利ノ中ヲ減坪スヘシ
 敷堀砂利
 羽取石何十石
 同羽取坪
 内埋石
 盛砂利

品目	員數	代價	單價	價尺	尺度	坪
人	何十人	何	何	何	何	何十坪
大工	何十人	何	何	何	何	何十坪
、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、
何々	何程	何程	何程	何尺	何尺	何十坪

内
 何百何十何人何分
 何々何人掛
 何々何人掛
 何々何人掛
 何々何人掛
 何々何人掛
 何々何人掛
 (道路橋梁)
 何 郡
 何 村町
 或ハ外何ヶ村
 國縣(里)道線何々ヨリ何々ニ達スル道路改修(修繕)(何橋架設(修繕)工事)延長何百何間幅員何間
 一金何程
 内 譯
 諸色代
 職工賃
 人夫賃
 雜費

右仕様盛土堀割掻キ均シ等左ノ内譯ノ通仕拵傾斜面勾配何割(土砂ナレハ) (粘土氣ヲ含有セル) (若石等
ヨル一割切) (モノハ) モ二分) 其質ニ
下五分以上)
 道路左右溝渠巾一尺五寸横斷水板ハ暗渠ニ造リ左右土抱(杭筋)(石垣)ヲ築キ耳芝ヲ(長一尺厚三寸巾)
 植栗石厚何寸上土厚何寸砂利厚何寸ヲ布キローラルヲ以テ曳堅ノ横斷路面ノ形狀ハ楕圓形トス其
 勾配ハ三十分一ニ出來ノコ
 此 譯

第何號杭ヨリ第何號杭迄	但	立一坪
一盛土(堀割)立何坪	但	何人掛
此人夫何人	但	何人掛
全	全	全
一全	但	平均高何間何分
合立坪何百何十坪何合	但	平均高何間何分
此人夫	但	平均高何間何分
第何號杭ヨリ第何號杭迄	但	平均高何間何分
一搔キ均シ坪何坪	但	平均高何間何分
此人夫何人	但	平均高何間何分
第何號杭ヨリ第何號杭ニ至ル	但	平均高何間何分
一左右石垣延長何間何分	但	平均高何間何分
此平坪何坪何合	但	平均高何間何分
此石取人夫何人	但	平均高何間何分
此石工何人	但	平均高何間何分
一全	但	平均高何間何分
全	但	平均高何間何分
全	但	平均高何間何分
全	但	平均高何間何分

合平坪何百何坪何合	此人夫何百何十何人何分	此石工全	第何號杭ヨリ第何號杭ニ至ル	一杭筈延長何間何分	此平坪何坪	此入用	雜木丸太何本	但間ニ送リ何本打	筈(竹或ハ鹿朶)何束	但平一坪何束遣ヒ	人夫何人	第何號杭ヨリ第何號杭ニ至ル	一溝渠延長何間何分	此立坪何坪	此人夫何人	全	一左右耳芝延長何百間	此平坪何十何坪
平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	長何尺	長何尺	長何尺	長何尺	長何尺	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分
平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	長何尺	長何尺	長何尺	長何尺	長何尺	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分
平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	長何尺	長何尺	長何尺	長何尺	長何尺	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分	平均高何分

金				諸色代	
内譯				職工賃	
金				人夫賃	
金				此入用	
品目	員數	代價	單價	長	徑
土管	何本	何圓	何拾錢	何尺	何寸
人夫	何人	、、、、	、、、、		
内					
何人 繼手ニ粘土ヲ用ヒ何々共					
何人 何々					
右ノ外入用ノ品目ハ此例ニ依リ列記スヘシ					
一掘盛土坪及工費計算書讀地又ハ移轉費若クハ雜費等ノ設計書ハ明治十八年内務省十三號訓令ニ據ルヘシ					
何々ヨリ何々ニ達スル道路字何々橋(新架)架換(修繕)長何間巾何尺(木)石(造)					
何郡 何村町					

一金何程				目論見額	
内譯				(△印ハ米)	
金何程				諸色代	
金何程				職工賃	
金何程				人夫賃	
右仕機橋臺何々杭何立何振櫃幾通行桁幾通何々ニシテ仕拵ノ積リ					
△此外橋梁ノ構造ヲ顯ハスニ必用ナル事項ハ此例ニ依リ詳記スヘシ					
一橋臺石垣折廻シ共延長何間					
此平坪何程					
一石垣内埋延長何間					
此栗石何程					
一前後道路修繕延長何間					
此砂利何程					
△此外土石坪ニ係ルモノハ此例ニ依リ列記スヘシ					
右入用					
木材之部					
品目	員數	尺	一ケ尺	長	角巾厚末口
橋杭杉	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、

品目	員數	目方	一ケ目方	長	巾厚
概何々	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、
筋違概全	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、
梁全	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、
肘木全	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、
桁全	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、
合計					
△此外入用ノ品目ハ此例ニ依リ列記スヘシ					
尺ノ何程					
代何程					
内					
杉何程					
代何程					
何々程					
代何程					
鐵物之部					
一本何程					
一本何程					
△尺ノハ長ニ間一尺角ヲ以テ一 本トシモ已下四捨五入トス					
品目	員數	目方	一ケ目方	長	巾厚
ボールド	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、

品目	員數	代價	單價	備考
正 錄	、、、	、、、	、、、	、、、
是ハ何々ヨリ何々へ締付一本ニ何本ツ、何本分				
皆 折 釘	、、、	、、、	、、、	、、、
是ハ何々付何々ニ何本打何々分				
△此外入用ノ品目ハ此例ニ依リ列記スヘシ				
合鐵目何程				
代何程				
雜之部				
百目ニ付何程				
品目 <td>員數</td> <td>代價</td> <td>單價</td> <td>備考</td>	員數	代價	單價	備考
石 垣	、、、	、、、	、、、	何々石面一坪何十石扣何尺野 面又ハ何々トカ
セメント	、、、	、、、	、、、	、、、
何々	、、、	、、、	、、、	、、、
小計				
金何程				
品目	員數	代價	單價	備考
品目	員數	代價	單價	備考

但第四條但書ニ該當スル工事ニアツテハ圖面并工費計算表ノ添付ヲ要セス

一 工事出来形實測平面圖及縱橫斷面圖

一 道路工費計算表

一 工事出来形帳

第八條 補助金ハ工事竣功検査ノ後之ヲ交付スルモノトス
第九條 當廳ノ許可ヲ受ケスシテ起工又ハ竣功ノ期日ヲ遷延シタルトキハ其工事ニ對スル補助金ハ一切交付セサルヘシ

第十條 工事竣功検査上其出来形所定ノ設計ニ違フト認ムルトキハ日數ヲ限リ其更正ヲ命スヘシ

但時宜ニヨリ其出来形ヲ存置シテ補助金ノ幾分ヲ減額シ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第十一條 工事竣功検査以前ニ於テ物件ノ毀損亡失アルトキハ之ニ對スル補助金ヲ扣除シ其存在

スル出来形ノミニ補助金ヲ交付スヘシ

第十二條 本手續ニ依リ管理者タル町村長ヨリ當廳ニ差出スヘキ書類ハ總テ所轄郡役所ヲ經由ス

ヘシ

但治水工事ニ係ルモノハ郡市役所ヨリ所轄治水區出張所ヲ經テ進達スヘシ

(書式第一號)

里道何郡市町村 間新設(改修)工費計算表

種目	員	數	設計	金補助	金市町村費
栗石道路	何間幅延長何間				

新道	通計	何々	雜費	家屋移轉	潰地買入	石橋	木橋	暗渠	陸道	割石道路	新道		舊道	
											長	何間	長	何間
				何棟	何段歩		何橋	何个所						

(書式第二號) 道路(何々)起 工届
 一 何々道路ハ線路名 堤防ハ川名 町村何々工事
 但何年何月何日付何々號指令地方稅補助ノ許可ヲ得タル分

右何月何日起工シ何月何日マテニ竣功可致候此段及御届候也

年 月 日

富山縣知事宛

管理者署名印

(書式第三號)

道路(何々)工事出來形届

一何々町村何々工事

但何年何月何日付何々號指令地方稅補助ノ許可ヲ得タル分

右何月何日起工何月何日竣功候ニ付別紙何々相添此段及御届候也

年 月 日

富山縣知事宛

管理者署名印

●訓令第四十一號 明治二十三年三月二十二日

郡役所 市役所

明治十八年乙第四十九號達ハ自今廢止ス

○堤防

●訓令第十六號 明治二十二年四月九日

郡役所

治水區出張所ニ於テ人民ニ土木工事ノ受負ヲ命セシトキ受負者ノ身元保證物ハ其役所ニ納メシム

ル答ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

一工事請負人ヨリ身元保證物ヲ納メタルトキハ其物貨ヲ検査ノ上之ヲ領置シ而シテ其品目及員數

ヲ記入シタル領置證ヲ納人ニ交付スヘシ

一前項保證物ノ返還ヲ請求シタルトキハ最前交付ノ領置證ト引替ニ現物ヲ返還スヘシ

●訓令第六十五號 明治二十二年五月三十一日 郡役所 元戸長役場

二十三年四月
訓令第五十三
號ヲ以テ改ム

明治十八年乙第四百二號達中左之通改正ス

達文中「土木課出張所」トアルヲ「治水區出張所」トス

出張所位置

第一治水區出張所 礪波郡北殿若村大字大清水村

第二治水區出張所 上新川郡島村大字朝日村

第三治水區出張所 下新川郡三日市町大字三日市村

●訓令第三十九號 明治二十三年三月二十二日

市町村費ノ負擔ニ係ル堤塘使用料及並木其他土居敷等ニ生スル竹木拂下代徴收之儀ハ爾後其管理

者ニ於テ取扱フヘシ

郡役所 市役所 町村役場

○第七類

○國稅

●縣令第五十七號 明治二十二年五月二十四日

本年三月法律第九號國稅徵收法第八條第二項ノ徵稅令書ヲ受ケタル納稅人若シ其納期限以內ニ於テ分納セントスルトキハ本年三月大藏省令第五號國稅徵收法施行細則第四條第四號様式ニ準シタル納付書ヲ添付シテ金庫ニ納付シ其別符ノ切離及ヒ領收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フコトヲ得

●縣令第六十六號 明治二十二年六月七日

明治二十年六月縣令第七十六號所得稅調查委員選舉及委員會細則中左ノ通改正シ市ニ係ル調查委員選舉及委員會ハ右細則ヲ適用ス其場合ニ於テハ全則中町村選舉人トアルハ市選舉人、郡長トアルハ縣知事、郡役所トアルハ縣廳若クハ指定スル場所、郡内トアルハ市内トシ第十七條ノ書記ハ稅賦ヲ以テ之ニ充ツ

第一條 調查委員ハ各郡市毎ニ五人補員ハ各郡市毎ニ三人トス

第三條中「五月二十日以内」ヲ「六月二十日以内」「五月三十一日以内」ヲ「六月三十日以内」トス

第四條第一項及全條第二項中「其資格ヲ有スル者ノ住所姓名ト」ノ十四字ヲ削除ス

第十條中「六月」ヲ「七月十日以前」「三十日」ヲ「二十日」トス

●縣令第六十七號 明治二十二年六月十四日

本年三月法律第九號國稅徵收法第三條第二項市町村交附金ハ其年度十月翌年度四月ノ二期ニ區分シ每期前月マテノ徵收金額ニ依リ之ヲ交附ス

但本文交附金ハ市町村長徵收事務取扱以降ニ限ル

●縣令第九十一號 明治二十二年九月六日

所得納税人轉居〔所得稅法施行細則第一八條ノ規定ヲ除ク〕代替又ハ改姓名ヲナシタルトキハ市ハ市長ヲ經テ知事ニ町村ハ町村長ヲ經テ郡長ニ届出ヘシ

但明治二十年十月縣令第百二十五號ハ廢止ス

●縣令第十四號 明治二十三年二月二十八日

明治十八年六月甲第四十一號菓子製造營業人心得明治二十二年一月縣令第九號賣藥印紙稅規則心得全年一月縣令第十二號煙草稅則心得中左ノ通り加除更正ス

菓子製造營業人心得

第二項第五項第十二項第十三項及ヒ樣式離形削除

第三項ヲ第二項トシ以下現存ノ項順次繰上ケ

第七項中姓名ヲ下ヘ(郡ニ係ルモノハ)ノ七字郡役所ヘノ下ヘ(市ニ係ルモノハ縣知事宛ヲ以テ

所在収稅部出張所ヘ)ノ二十三字挿入

第九項中(第四號)トアルヲ(左ノ)ト更正シ今項ノ左傍ヘ左ノ離形ヲ追加ス

鑑札番號

菓子 製造營業

小賣營業

富山縣何市何町何村何大字何町何番地

何

何

寸法 中八寸 堅三尺九寸

第十項ヲ左ノ通り更正ス

第十項 菓子營業者ハ菓子製造高賣上高及ヒ菓子買入高并ニ原品ノ買入及ヒ支拂高等適宜帳記

シ置キ製造高及ヒ賣上高ハ稅則第十三條ニ據リ其期ヲ過ラズ明瞭届出ツヘシ

但市ニ係ルモノハ縣知事宛ヲ以テ所在収稅部出張所ヘ郡ニ係ルモノハ郡長宛ニテ所轄郡役

所ヘ届出ツヘシ

賣藥印紙稅規則心得

第三條中第九號ノ下(行商人ハ第十號)ノ七字削除

第九條中賣藥ヲノ下(請賣人及)ノ四字挿入

第十三條中賣藥ハノ下(再製云々以下別タス)マテノ十六字削除

第十五條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加ス

第十六條 賣藥營業人ハ其製藥請賣人ハ其請賣々藥ヲ行商人ニ渡ストキハ其藥品ノ定價方名貼

數渡年月日營業人住所堂號氏名ヲ詳記捺印シタル渡帳又ハ通帳ヲ添付シ行商人行商スルトキ

ハ必ス之ヲ携帯スヘシ

帳簿式中

第二號表紙(買入)ノ二字并ニ同號中賣藥原素品買入之部再製藥遺拂之部削除

第四號中(再製)トアルヲ(再裝)ト更正

第五號表紙(并裝置高)ノ四字及ヒ同號中裝置月日以下三欄削除

第九號拂高ノ部中(又ハ店小賣)ノ五字并ニ同欄内(店小賣)ノ三字削除

第十號削除

帳簿記載方備考ヲ左ノ通り更正ス

第三號賣藥製造帳ハ第六號賣捌帳ノ月計ヲ對比シ殘高ヲ生スルトキハ翌月ノ初メ製造月日欄内ニ越高ト明記各標目ニ據リ記載スルモノトス

一 第六號賣藥賣捌帳ハ店頭販賣ニ係ルモノニ限り毎月末日ニ於テ取調記載スルモ妨ケナシ

一 越高記載ヲ明示セサル帳簿ニシテ越高アルトキハ半ケ年七月ニ於テ其越高ヲ記入スルモノトス

煙草稅則心得

第一條ヲ左ノ通り更正ス

第一條 煙草稅則第二條ノ願書ニハ製造營業人ハ稅則施行細則第一條ニヨリ第一號第二號書式ノ願書及ヒ証約狀ヲ添付シ仲買營業人ハ稅則施行細則第一條ニヨリ第一號書式ノ願書ヲ添付ス

第三條中變更シタルトキハノ下(製造營業人云々以下郡役所ニ)マテノ三十三字削除

第四條削除

第六條中(製造)ノ二字及ヒ鑑札書換方ノ下(所轄郡役所云々以下郡役所ニ)マテノ二十七字并ニ但書(當該官廳ニ)ノ五字削除

第七條中前証約狀引換方ノ下(所轄郡役所云々以下當廳ニ)マテノ十一字削除

第二十二條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加ス

第二十三條 稅則第二條ノ願書并ニ本心得第二條第三條ノ届出第六條第七條ノ申出ハ渾テ所在稅務部出張所ヘ差出シ又ハ申出ツヘシ

帳簿式中

第一號營業場區域届書式中富山縣知事宛ノ下割註(郡役所ニ差出スモノハ其郡役所)ノ十四字削

除

第三號第七號備考ヘ左ノ一項ヲ追加ス

一 皆拂ニ際シ買入量目ニ増減ヲ生シタルトキハ殘量目欄内皆拂ノ傍ニ其増減ヲ朱記スヘシ

第四號煙草製造帳ヲ別紙ノ通り更正ス

●縣令第五十五號 明治二十三年十一月七日

明治二十三年十一月十一日大藏省令第二十九號ヲ以テ直稅分署間稅分署位置管轄區域被定候就テハ地租及所得稅及轉出入届ヲ除キ並ニ租稅ノ徵收ニ關スル事件ハ所在直稅分署ニ其他モノハ^{管轄營業及稅賦免狀并上高届}間稅分署ニ差出スヘシ

●縣令第二十一號 明治二十四年三年三十日

明治二十年九月縣令第百三號廢止ス

●告示 第百四號 明治二十二年十月十八日

登記ヲ經タル土地ノ地價格ニ異動ヲ生シタルトキハ是迄登記法第一條第二項ニヨリ變更ヲ要セシ處本年法律第十三號ヲ以テ地券ヲ廢セラレタルニ付テハ地價金ノ儀モ從テ登記上必要ナラサルヲ以テ爾後變更ヲ請フニ及ハス

●告示 第百五號 明治二十二年十月十八日

本年勅令第三十九號土地登記帳ノ原本ヲ請求セントスルモノハ別紙離形ニ倣ヒ請求書ニ手数料ヲ添ヘ所在稅務部出張所ヘ差出スヘシ

但本文請求書ハ口頭ニ換ヘ申出ルモ妨ケナシ

(別紙離形)

原本請求書

(大字ニケ所以上ニ係ルモノハ式ニ倣ヒ
大字限リニ區分シ連載スルモ妨ケナシ)

何郡何町村
何市

大字何町村

番字	號	番字	號	番字	號	番字	號
何何	番々	何何	番々	何何	番々	何何	番々
何何	番々	何何	番々	何何	番々	何何	番々
何何	番々	何何	番々	何何	番々	何何	番々
何何	番々	何何	番々	何何	番々	何何	番々
何何	番々	何何	番々	何何	番々	何何	番々

計何十何筆
右土地臺帳謄本御下渡被下度候也

何郡何町村
何市
大字何町村何番地

地主 何ノ 誰印

年 月 日
縣知事宛

●告示第三十六號 明治二十三年三月二十八日

租稅外諸收入金ノ收納手續左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但從前ノ違等ニシテ本文手續ニ抵觸スルモノハ廢止ス

第一條 租稅外諸收入トハ率ヲ左ノ如シ

一 地所貸下料

- 一 地所拂下代
- 一 建物拂下代
- 一 物品拂下代
- 一 藥用阿片拂下代
- 一 教科用圖書檢定手数料
- 一 學校教員學力試驗手数料
- 一 學校教員免許狀授與手数料
- 一 醫師開業免許狀手数料
- 一 鑛山借區稅
- 一 獸醫開業免許狀手数料
- 一 登記印紙料
- 一 訴訟用印紙料
- 一 土地臺帳謄本手数料
- 一 滯納處分費辨納金
- 一 違警罪材料及沒收金
- 一 沒收金

第二條 納人ニ於テ主管收入官吏ヨリ前條各項ノ收納金ニ係ル納入告知書ノ交附ヲ受ケタルトキ

ハ納入告知書ニ指示シタル納期日迄ニ現金ヲ添ヘ金庫ニ納入シ金庫ヨリ領收證書ヲ受取ヘシ

第三條 納人ニ於テ前條領收證書ヲ受取タルトキハ即日之ヲ納入告知書ニ記名ノ收入官吏ニ差出

シ別符切離及領收證書ニ檢印ヲ乞フヘシ

第四條 現金収納ニ係ルモノハ收入官吏ニ即納シ領収證書ヲ受取ヘシ
 ●告示第三十七號 明治二十三年三月二十八日
 明治二十三年一月大藏省令第一號國稅滯納處分法施行細則第十五條第四號様式納付書ノ科目ハ雜収
 入辨償金國稅滯納處分費辨納金ト記載スヘシ
 ●告示第三十八號 明治二十三年三月二十八日
 市町村長ニ於テ徵収スヘキ國稅コシテ納稅期限ヲ過キ市町村長ヨリ滯納報告以後督促令狀發付以
 前ニ於テ該滯納稅金ヲ上納セントスルトキハ印號様式ノ納付書ニ乙號ノ如ク收入官吏ノ承認ヲ受
 ケ稅金ハ金庫ヘ納付シ其領収證ノ檢印及別符ノ切離ヲ請フヘシ

(甲號) 用紙適宜
 縦四寸五分ノモノ一枚 横四寸五分ノモノ一枚 縦二寸五分ノモノ一枚 横二寸五分ノモノ一枚 接續

納付書		納付書	
第何年度	第何年度	第何年度	第何年度
項	項	項	項
目	目	目	目
第何年度	第何年度	第何年度	第何年度
明治何年	明治何年	明治何年	明治何年
何月	何月	何月	何月
何日	何日	何日	何日
住所氏名	住所氏名	住所氏名	住所氏名
經常租稅	經常租稅	經常租稅	經常租稅
收入官吏氏名	收入官吏氏名	收入官吏氏名	收入官吏氏名
収稅部何地出張所	収稅部何地出張所	収稅部何地出張所	収稅部何地出張所
現金何程	現金何程	現金何程	現金何程
右納付候也	右納付候也	右納付候也	右納付候也
明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日
住所氏名印	住所氏名印	住所氏名印	住所氏名印
現金庫印	現金庫印	現金庫印	現金庫印
領収候也	領収候也	領収候也	領収候也
明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日	明治何年何月何日
何地現金庫印	何地現金庫印	何地現金庫印	何地現金庫印

裏 (號乙) 面

収税部何地出張所
 収入官吏官氏名承認 (檢印)

第何年度	經常租稅	住 所 氏 名
	目	
第何年度	第何期何分	
収入官吏官氏名表		収税部何地出張所

一金何程

明治何年何月何日 何地金庫へ納付

収入官吏 (檢印)

金庫 (封印)

収入官吏 (檢印)

元地ノ反別地
又増ハ墨字減
記入スヘシ

處分濟ノ時々
年ノ合計及ヒ
差引ヲ爲シテ
年以後ノ年計
計ハ前年ヲ累

帳尾ニ郡計ヲ
附スヘシ

十八年以降ノ
増減ヲ記入ス
ルハ用紙ノ葉
ナカハ第一欄
何部村トアル
上載シ式ノ如
ク記載スヘシ

(第一號附屬)
追加地租臺帳

年	無許可開聖												要目			
	野			原			元			田						
	租地	價地	別反	租地	價地	別反	租地	價地	別反	租地	價地	別反				
八																八
九																九
十																十
十一																十一
十二																十二
十三																十三
十四																十四
十五																十五
十六																十六
十七																十七

(△印ハ朱)

(一八三三番)

何町村

●告示第六十一號 明治二十三年六月六日

明治二十二年五月縣令第五十七號ニ依リ各納税人ヨリ税金ヲ分納スルトキハ右ニ關スル徵稅令書ヲ添付スヘシ

●告示第六十五號 明治二十三年六月二十七日

各納税人ニ於テ直ニ金庫ニ納入スヘキ國稅ニシテ其徵稅令書ノ發付ヲ受ケ納期經過後督促令狀發付以前ニ於テ該税金ヲ上納セントスルトキハ本年三月告示第三十八號ニ倣ヒ徵稅令書ニ収入官吏ノ承認ヲ受ケ金庫ニ納付スヘシ

●告示第六十六號 明治二十三年六月二十七日

國稅滯納處分法施行細則第四號第五號樣式納付書ノ儀ハ本年大藏省令第三號國稅徵收法施行細則第四號樣式ニ準シ年度科目ノ次行へ収入官吏官氏名扱収稅部何地出張所ノ文字ヲ記入スヘシ

●告示 第二號 明治二十四年一月二十三日

明治二十年四月告示第四十三號ハ自今廢止ス

●訓令第百二十八號 明治二十二年四月十六日

郡 役 所 元戶長役場

明治十八年本縣乙第七號達地租ニ關スル諸帳簿樣式中地租臺帳ノ次へ左ノ樣式ヲ挿入ス

明治十八年本縣乙第七號達追加別冊

郡 役 所 ノ 分

一追加地租臺帳 (第一號附屬樣式)

是ハ事故アリテ后年ニ至リ前年へ溯ルモノヲ毎歲ニ區分累計シ地租臺帳額ニ併セテ既往年ノ總額ヲ明ニス

二十二年七月
訓令第百二十七
號ヲ以テ但書
追加

等	級	所得金高	稅	金	住	所	姓	名
<p>●訓令第百八十七號 明治二十二年六月二十八日 郡役所</p> <p>明治二十二年三月大藏省令第五號國稅徵收法施行細則第二號様式ノ徵稅令書ハ所得稅菓子稅及ヒ隨時收入ノ諸稅ニ之ヲ用ヒ其他ハ第一號様式ニ據ル可シ</p> <p>●訓令第百八十八號 明治二十二年七月五日 郡役所 市役所 町村役場</p> <p>本年三月勅令第三十三號ニ依リ徵收スヘキ國稅ハ市町村ニ於テ適宜一人別徵稅元帳ヲ備置之ニ據リ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ</p> <p>但所得稅菓子稅及隨時收入ノ諸稅ヲ除ク外一人別ノ賦稅額ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々權稅部出張所ヨリ市町村へ通告セシム</p> <p>●訓令第百九十八號 明治二十二年七月十二日 權稅部出張所</p> <p>明治二十年八月本縣訓令第九十六號官損金稟申書甲乙號様式中「稟申」トアルヲ都テ「報知」ト改メ明治二十年八月本縣訓令第三百一十一號地租酒造稅未納報告ノ件ハ自今廢止ス</p> <p>●訓令第百九十九號 明治二十二年七月十二日 權稅部出張所</p> <p>明治二十二年一月訓令第十六號車稅規則取扱手續第二條ヲ削除ス</p> <p>●訓令第百二十四號 明治二十二年八月二日 郡役所</p> <p>所得稅調查委員會決了シタルトキハ別紙書式ニ據リ直ニ其地稅部出張所へ報告スヘシ</p> <p>但納稅人ノ出入〔他府縣又ハ他郡市ノ轉居〔同郡内ニ於テ居住町村〕ヲ異ニシタルモノヲ云〕代替改姓名及稅額ニ異動ヲ生シタルトキハ本文ニ準シ事由ヲ記シ其時々報告スヘシ</p> <p>明治何年所得稅調查決了報告</p>								

二十三年十二月
訓令第百十二
號ヲ以テ但書
追加シテ修正ス

年	月	日	何郡長	姓	名	印
<p>右報告候也</p> <p>●訓令第三十四號 明治二十三年三月十三日 市役所 町村役場</p> <p>地租ニ關スル願書及ヒ諸帳簿取扱心得左ノ通相定ム</p> <p>第一條 土地分割願ヲ受領シタルトキハ段別坪數地價分配上ノ適合ヲ鑑別シ不適當ト視認ムルモノハ意見書ヲ添ヘ進達スヘシ</p> <p>但地目變換其他ニ付分割異動ニ係ルモノ亦同シ</p> <p>第二條 明治二十二年四月大藏省令第六號第二條土地臺帳記載ノ所有者質取主ノ住所氏名異動屆チ受領シタルトキハ關係諸帳簿ヲ訂正シ直ニ所在收稅部出張所へ届出スヘシ</p>						

二十三年十月
訓令第三百三十
七號ヲ以テ但
書ヲ削ル

第三條 土地所有ノ移轉又ハ質入及ヒ其解約ニ係ル異動ハ所在収稅部出張所ヨリ通報スヘキニ依
リ關係諸帳簿ハ其時々訂正スヘシ

第四條 明治二十三年三月縣令第十八號ニ關スル願屆書ニ對シ其時々指令又ハ示達スヘキニ付市町
村長ハ全縣令第十七條ニ依リ指出シタル願屆書ノ合計ニ照査シ三日以内ニ願屆人へ交附スヘシ
前項照査ヲ了シタルトキハ直チニ其關係諸帳簿及地圖ヲ訂正スヘシ

第五條 収稅官吏ニ於テ必要アルトキハ市役所又ハ町村役場ニ保管ヒル地租ニ關スル諸帳簿地圖
ヲ借入レ又ハ査閱スルコトアルヘシ

●訓令第八十六號 明治二十三年五月二日 収稅部出張所

内國稅徵收費配賦豫算取扱方左ノ通心得ヘシ

第一項 出張所派出所ニ屬スル經費中備人料管内旅費印刷費〔兼費印刷費ハ〕ハ豫算年額ヲ定メ之ヲ
配賦ス但第二項新荒地檢査費ハ要用ノ都度配賦ス

第二項 出張所ニ屬スル豫算ハ通常費、土地檢査費、新荒地檢査費ノ三項ニ分チ配賦ス

第三項 豫算ノ配賦ヲ受ケタルトキハ將來施行ノ順序方法ヲ考定シ十日以内ニ計書書ヲ調製収稅
長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第四項 計書ノ檢閲ヲ受ケタル後ハ其豫算内ニテ支出ノ目的ニ違ハサルモノニシテ左ノ場合ヲ除
クノ外ハ必要ニ隨ヒ隨意使用ヲ專行スルコトヲ得ヘシ

第一 出張所長ノ派出

第二 出張所員所轄外〔管外ヲ〕ノ派出

第五項 前項第一第二ノ必要アル場合ハ豫メ其用務日數并ニ派出先及ヒ行路ヲ詳悉シ所長ヨリ申
出指揮ヲ受クヘシ

第六項 第一項ノ費目及ヒ第二項ノ項目ハ彼是流用スルコトヲ得ス

第七項 新荒地檢査旅費ヲ要スルトキハ其村名大字段別筆數日當支給日數車馬路程人足人數其一
人給額ヨリ算定シ旅費人足貸金ヲ要求スヘシ
但本文書面ニハ算定ノ出所ヲ詳悉スルヲ要ス

第八項 豫算配賦額支拂額ハ各費途ヲ區分適宜帳簿ヲ設ケ其差引ヲ明瞭ニスヘシ

第九項 特ニ指揮シテ出張セシメタル旅費ハ別途ニ支給シ豫算配賦内ノ外トス

第十項 第三項ノ計書書ハ別紙様式ニ據リ調製スヘシ
(別紙様式)

何年度内國稅徵收費豫算分配計書書

備 人 料 [小使給料駐村人夫給
料ハ組入ルベカラズ]

名	稱	所	要	事	由	使	役	日	數	一	日	當	料	金	合	金	額
帳	綴	職	工	何	々	何	冊	綴	針	ノ	爲	メ					
狀	持	人	足	年	度	中	平	均	何	處	總	何	箇	所	へ	送	
使	丁	(同)	上	事	由	ニ	同	シ									
計	何	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々
印刷費																	

品名	所要總數	一個當代金	合金額	
			合	金額
何々通知(照會)書 、、、、、				
計				
管内旅費				
用務及旅行地	旅費等級	延人員	車馬路程	人當
何々ノ爲メ所轄内巡回	判任旅費		日常支給日數	合金額
何々ノ爲メ何町村出張 、、、、、	雇旅費			
計				
右ノ通り分配致度候也				
年 月 日				
収税長宛				
				所長(主幹)名印

訓令第八十八號 明治二十三年五月九日

明治二十一年訓令第三十八號ハ廢止ス

訓令第九十三號 明治二十三年五月二十三日

明治二十三年大藏省訓令第八十五號ヲ以テ國稅ニ關スル鑑札用品出納順序定メラレ候付テハ

其取扱方左ノ通り相心得ヘシ

一 鑑札用品出納規程第二條ノ請求書ハ内國稅徵收費所屬物品出納順序第十二號様式ニ準シ調製シ其宛名ハ収税長トス

一 同規程第三條ノ領收證書ハ内國稅徵收費所屬物品出納順序第八條ニ準シ取扱フヘシ

一 同規程第六條ノ消耗品出納簿ハ會計官吏ハ内國稅徵收費所屬物品出納順序第四號様式第二類物品出納帳中ニ區分之ヲ登記シ鑑札下附主任官吏ハ同順序第九號様式ニ準シ調製スヘシ

一 同規程第八條ノ報告書ハ内國稅徵收費所屬物品出納順序第二十二號様式ニ準シ年度後一箇月以内ニ之ヲ調製指出スヘシ

但様式中拂ノ部本廳へ返納高ノ欄ヲ不用棄却高トナスヘシ

一 出張所長ハ明治二十二年本縣訓令第二百五十四號様式ニ倣ヒ毎月ノ受拂報告書ヲ作り翌月十日以内収税長ニ差出スヘシ

一 本年五月末日受拂殘ニ係ル鑑札用品ハ現品ハ据置キ品名員數ヲ記載シタル目錄書ヲ作り印紙類會計官吏ヨリ内國稅徵收費所屬物品會計官吏へ引繼キ更ニ出張所長ヨリ請求ノ式ヲナスヘシ

一 前各項ノ外内國稅徵收費所屬物品出納順序中同規程ニ抵觸セサル章條ハ之ヲ適用ス

訓令第九十五號 明治二十三年五月三十日

収税部出張所長

収税部出張所在對收入官吏

第七類 國稅

二十四年二月
訓令第二十號
ヲ以テ本手續
中ヲ改正ス

租税外諸収入ヲ取扱収入官吏一箇所ニ二名ヲ置キシモノハ納入告知書ニ其二ノ官氏名ヲ記載シ
収入官吏現金領收證及ヒ現金拂込書ニハ其二名ニテ連署スヘシ

◎訓令第九十九號 明治二十三年六月二十日

収入官吏

租税外諸収入取扱ヲ収入官吏轉免等ニ依リ交替ノ節前任後任官吏ノ執務日分界報告方等手續左ノ
通心得ヘシ

一 収入官吏交替ノ節該事務ノ引繼ヲ了シタルトキハ何日迄ハ前任収入官吏ノ取扱何日ヨリ以降ハ
後任収入官吏ノ取扱ナルコトヲ前任後任収入官吏連署即日金庫へ通報シ今時ニ其旨本廳へ報告
スヘシ

一金庫ハ前項通報ノ日限ヲ以テ帳簿上前任収入官吏ノ口坐ヲ締切リ月計對照表甲表ヲ作り證明ヲ請
フヘキニ付前任収入官吏ニ於テ證明ヲ爲スヘシ

但前任収入官吏死亡ノ場合ハ後任収入官吏ニ於テ本項ノ月計對照表證明スヘシ

◎訓令 第一百二號 明治二十三年六月二十七日 稅部出張所 所得稅調查委員會長

所得稅調查委員

所得稅調查委員諸給並ニ調查會要品受拂手續左ノ通改正ス

但明治二十年九月達第八百三十四號ハ廢止ス

所得稅調查委員諸給並ニ調查會要品受拂手續

第一條 所得稅調查委員手當及文具料ハ閉會當日各自請求書ヲ作り會長ヲ經テ差出スヘシ其書式
第一號第二號ニ依ル

但本文請求書ハ一紙ニ連名認ムルモ妨ナシ

第二條 所得稅調查委員參會、巡回、旅費ハ閉會マテニ歸郷旅費ハ歸若三日以内精算書正副二通ヲ

作り會長ヲ經テ差出スヘシ其書式第三號ニ依ル

但本條旅費ノ概算渡ヲ要スルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニハ第四號書式ノ概算渡請
求書ヲ作り會長ヲ經テ差出スヘシ其概算渡ヲ精算スルハ本條ノ手續ニ依ル

第三條 第一條第二條ノ金額ハ左ノ手續ヲ以テ交付ス

一 廳下ニ在ル委員ハ會計主務官ヨリ領收證書用紙ヲ交付スヘキニ付之ヲ以テ富山本金庫コト
現金ト交換スヘシ

右ハ同一質金額ヲ二人以上仕拂アル場合ノ手續ニシテ若シ一人ニ限り仕拂フ場合ニハ會計
主務官ヨリ本人ノ作りタル領收證書ト引換ニ仕拂命令書ヲ交付スヘキニ付受取人ハ之ヲ以
テ富山本金庫ニテ現金ト交換スヘシ其領收證書ノ書式ハ第五號第六號ニ依ル

二 廳下外ニ在ル委員ハ會計主務官ヨリ領收證書用紙ヲ郵送スルト全時ニ富山本金庫ヲシテ送
金セシムヘキニ付其領收證書ト引替ニ現金ヲ受領スヘシ

第四條 概算渡ニ對シ精算上過剩金アルトキハ會計主務官ヨリ返納告知書ヲ發付スヘキニ付之ニ
現金ヲ添ヘ該報告書指定ノ金庫ニ納付シ金庫ヨリ別符付領收證書ヲ得直ニ差出スヘシ

其別符付領收證書ヲ差出シタルトキハ別符ヲ切離シ領收證書ニ檢印ヲナシ之ヲ返付ス其返付ヲ
受ケタルヲ以テ返納ヲ了シタルモノトス

第五條 所得稅調查會用品中左ノ物件ハ其需用ニ從ヒ所在稅部出張所ヨリ交付スヘキニ付全所
ニ請求受領スヘシ

但本條請求受領ノ手續ハ出張所ノ指示ニ依ルヘシ

用紙、郵便切手、印肉、炭、茶、生紙、

第六條 既ニ受取タル物件ニ使用殘アルトキハ閉會後直ニ所在稅部出張所へ返付スヘシ

但本條返付ノ手續ハ出張所ノ指示ニ依ルヘシ

第七條 本手續ニ掲クル請求書、領収證書、精算書ハ改削塗抹ヲ禁ス又一二二十ノ數字ハ必ス壹貳拾ノ字休ヲ用フルテ式トス

但金員ニ關セサル部分ノ誤寫ハ朱ノ縦線ヲ畫シ右傍ニ朱字ニテ訂正スルヲ得其訂正ヲ爲シタルトキハ本人檢印スルヲ要ス脱字ヲ補フモ亦之ニ準ス

第八條 本人ニ於テ事故アリ代理者ヲ以テ精算若クハ金員ヲ受領セシメントスルトキハ其委任狀正副二通ヲ作り之ニ本人ノ割印ヲナシ精算書若クハ其受領セントスル金員ノ請求書ニ添付差出スヲ要ス其正本ハ檢閱ノ上直ニ還付ス

(第一號書式)

請求書 (會長ノ印)

一金

但開期中手當(又ハ明治何年何月何日開會全何月何日閉會此日數何日間ノ内何々事故ノ爲メ何月何日ヨリ何月何日マテ日數何日間欠席ニ付現出席日數何日分手當金貳拾圓ノ日割手當)右請求候也

年 月 日

何郡所得稅調查委員 何 某 (印)
住所何郡何町村何番地

富山縣知事宛

(連名ニテ認ムルトキハ本文ノ通り一人毎ニ區分認ムルヲ要ス)

(第二號書式)

請求書 (會長ノ印)

一金

但文具料右請求候也

年 月 日

何郡所得稅調查委員 何 某 (印)
住所何郡何町村何番地

富山縣知事宛

(連名ニテ認ムルトキハ本文ノ通り一人毎ニ區分認ムルヲ要ス)

(第三號書式)

所得稅調查會 (會長ノ印) 又ハ所得稅調查ノ件ニ付何郡巡回(旅費精算書)ノ會長ノ印

一金

內(外ニ)

差引

金

不足高(過剩高)

概算渡高

精算高

精算內譯

年 月 日	發着地名	車馬里數	派車哩數	宿泊日數	事由

計

右ノ通りニ候也

年 月 日

何郡所得稅調查委員 何
住所何郡何町村何番地

某 ㊦

富山縣知事宛

(第四號書式)

請 求



一金

但所得稅調查會(又ハ所得稅調查ノ件ニ付郡内巡回)旅費トシテ日當何日車馬賃何里派車賃何哩分概算渡リノ分
右請求候也

年 月 日

何郡所得稅調查委員 何
住所何郡何町村何番地

某 ㊦

富山縣知事宛

(第五號書式)

證

一金

但所得稅調查會(又ハ所得稅調查ノ件ニ付何郡巡回)何月何日ヨリ何月何日マテ旅費精算高(ニ對シ概算渡リ不足ニ付追給ノ分)

右正ニ領収候也

年 月 日

何郡所得稅調查委員 何

某 ㊦

會計主務官富山縣稅長宛

(第六號書式)

證

一金

但(第四號書式但書ニ全シ)
右正ニ領収候也

年 月 日

何郡所得稅調查委員 何

某 ㊦

會計主務官富山縣稅長宛

訓令第百十七號 明治二十三年七月二十五日

郡役所

所得納稅人轉出入報告方等左之通取扱ヘシ

一轉入者ニアツテハ所得稅法施行細則第九條ノ通報ヲ受ケタルトキ全第八條ノ届出ニ照合ノ上所
在稅部出張所ヘ報告シ其旨前住地ヘ回報スヘシ

一轉出者ニアツテハ轉居地ヨリ前項ニ該當スル回報ヲ得タル上所在稅部出張所ヘ報告スヘシ

一前兩項ノ報告方ハ明治二十二年ハ訓令第百十四號ニヨルヘシ

訓令第百五十一號 明治二十三年十一月二十八日 郡役所 市役所

明治二十三年ハ大藏省訓令第百二十四號ヲ以テ租稅調定ニ關スル証憑書類調理順序被違候ニ就テ

ハ二十三年度分ヨリ左記件名証憑書類取經メ差立期限ニ據リ送付目錄ヲ添ヘ主務署ヘ送付スヘシ

其返付ヲ要スル書類ハ送付目錄ヘ其旨ヲ付記スヘシ

但菓子賣上金高届書ニシテ本年度第一期ニ係ルモノハ來ル十二月十五日以内取纏メ送付スヘシ
一所得税額決議書

但自首ニ依リ税金ヲ追徴セシモノアルトキハ其届書

一納税者其納期以前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シ所得税法第二十三條ニ依リ税額ヲ輕減
又ハ免除セシモノアルトキハ其處分原議書

一所得納税者他管他郡市へ轉居又ハ他管他郡市ヨリ轉入セシモノアルトキハ左ノ事項ヲ記載シタ
ル事由書

一 納税者ノ氏名

二 所得金高及ヒ税金額

三 轉居又ハ元住地名

四 轉居又ハ轉入ノ年月日

五 納税濟否ノ區分假令ハ全年分又ハ前半年分後半年分納税濟或ハ納税未濟ト記スルノ類

右毎年度分取纏メ年度後一个月以内直税署へ送付

一菓子賣上金高届書

一銃獵免許願書

右間税署へ送付

●訓令 第七號

明治二十四年一月十六日

警察署長

直税分署長

間税分署長

收入官吏

租税外歲入金收入ノ際納入告知書ニ主管應取扱應及收入官吏官氏名ヲ誤記セシコトヲ發見スルト
キハ其都度訂正方經伺ノ上處分シ來候處自今右ノ誤謬ハ其發見シタル時々納入告知書ヲ發シタル

一月十五日限リ届出ノモノハ二月十五日限リ
七月十五日限リ届出ノモノハ八月十五日限リ差立
毎年度分取纏メ年度後
一ヶ月以内差立

官吏ヨリ收入官吏ヲ經テ當該金庫へ照會シ收入官吏拂込書ヲ以テ収納シタルモノハ該收入官吏ヨ
リ直ニ當該金庫へ照會シ當該金庫カ其照會ニ應ジ訂正シタル月ニ於テ等シク收入簿ヲ訂正スヘシ
●訓令 第十一號 明治二十四年一月二十三日 警察署長 直税分署長 間税分署長
警察署在勤收入官吏 直税分署在勤收入官吏
司法省主管及本縣主管租税外諸收入ヲ擔當スル該署在勤ノ收入官吏ヨリ會計規則第九十五條第九
十七條第九十九條ニ依リ會計検査院へ送付スヘキ計算書ニ對シ會計検査院達第一號第十一條ノ下
検査ニ係ル條項ノ内収入簿及現金出納簿ト符合ノ保證ハ當該署長ニ於テ別紙様式ニ倣ヒ保證書ヲ
作り該計算書ト共ニ當廳へ差出スヘシ

(別紙)

計算書ト収入簿ト(現金出納計算書ト現金出納簿ト)符合保證

一收入計算書ト収入簿ト對照セシニ(現金出納計算書ト現金出納簿ト對照セシニ)一モ相違ノ件ヲ

シ(又ハ云々何々ノ件ニ付符合セサルヲ以テ其理由ヲ推問セシニ別紙書面ノ如ク何々ト説明セ

リ)(説明ニ依リ明瞭セリ)(其他符合セリ)

右證明候也

何警察署長又ハ何直(間)税分署長

何官 氏 名 印

●訓令 第三十四號

明治二十四年三月六日

警察署長

警察署在勤收入官吏

郡役所在勤

租税外諸收入取扱ニ要スル物品取扱規程左ノ通相定ム

租税外諸收入取扱ニ要スル物品取扱規程

右之通相違無之此段報告候也

年 月 日

官 姓 名 印

(第四號) 物品會計官吏宛
(此所ニ寸計リ空系トナシ置クヘシ)

一何々々 簿 證明書

何 冊

此原價金(此原價ハ第四課ニ於テ
原帳ニヨリ記入スヘシ)

右ハ使用中何々ニヨリ亡失毀損ニ係ル事 亡失毀損致候儀ハ前記事實之通相違無之此段證明候也

年 月 日

官 姓 名 印

知 事 宛

官 姓 名 印

(第五號) 物品使用證

一何々々 簿

何 冊

右物品受取使用中正ニ保管致候也

年 月 日

官 姓 名 印

物品會計官吏宛

(第六號) 消耗品領收証

品 目	數	量	使 用 ノ 目 的
何々用紙	何	枚	何々 <small>所要ノ目的ヲ 摘記スヘシ</small>

右正ニ受取候也

年 月 日

使用者 官 姓 名 印

物品會計官吏宛

(第七號) 備品(消耗品)還納書

[備品ト消耗品トハ
各別ニ差出スヘシ]

一何々々 簿

何 冊

一何々々 用紙

何十枚

但何々々不用ノニ依リ不用ニ屬セシ分(何々破損ノニ依リ破損ニ付)引換ヲ要スル分

右還納候也

年 月 日

官 姓 名 印

物品會計官吏宛

●訓令第三十七號 明治二十四年三月六日

間 稅 分 署

間接國稅ニ關スル臺帳様式別紙ノ通相定メ明治十八年十一月十一日郡乙第八十四號達其他抵觸ノモノハ渾

テ廢止ス

但別紙ハ別ニ配付ス

(別紙)

(第一號)
明治何年度ヨリ
船 稅 臺 帳

間稅署何分署

(△印ハ朱書)

二〇一

△備考

一 免稅船臺帳ハ本帳ニ準シ調製スヘシ

一 沿革欄内ニハ何府縣何郡市何町村大字何町村何某ヨリ受若クハ修繕ヲ加ヘ積石間數ニ變動ヲ生シ別紙へ移記セシテ定繫港ヲ變更セシコト又ハ他ニ賣渡水火盜難破解決等ノ顛末ヲ記入スヘシ

一 事故欄内ニハ鑑札ヲ書換再渡シ又ハ稅則違犯其他徵收上ニ關スル百般ノ事故ヲ摘記スヘシ但次表以下全欄ハ之レニ準ス

一 總テ臺帳ニハ再渡書換等ノクマ鑑札下渡シタルトキハ其訂正ノ箇所へ主任捺印スヘシ

新 規 (買受)	再 渡	納 稅 人	住 所 (何郡市何町村大字何町村番地)以下 氏 名
鑑 札		代 理 人	
番 號 (下 附)		住 所	

船 種

住 所(何郡市何町村大字何町村番地)以下
氏 名

年 月 日	船 號	間 斷 數 石	稅 額	沿 革	定 繫 場	事 故

(第二號)
明治何年度ヨリ
車 稅 臺 帳

間稅署何分署

△備考

一 免稅車臺帳ハ本帳ニ準シ調製スヘシ

一 沿革欄内ニハ何府縣何郡市町村大字何町村何某ヨリ受若クハ修繕ヲ加ヘ稅額ニ増減ヲ生シタルニヨリ別紙ニ移記シタルコト又ハ他ニ賣渡水火盜難破解決等ノ顛末ヲ記入スヘシ

第七類 國稅

切押				切押				新 規 書 換 再 渡	住 所 氏 名	新 規 書 換 再 渡	住 所 氏 名
日 年 月	號 番	札 鑑	日 年 月	號 番	札 鑑	日 年 月	號 番				

(第三號)
明治何年度ヨリ
牛馬賣買免許稅臺帳

問稅署何分署

二〇四

第七類 國稅

稅 額	再 記	新 規	熔 印 年 月 日	車 種	住 所 氏 名
稅 額	再 記	新 規			

二〇五

(第四號)
明治何年十月ヨリ
酒造免許税臺帳

間税署何分署

△備考
一 酢元用免許臺帳ハ本帳ニ準シ調製スヘシ
一 繼續ノ印ハ鑑札ニ捺捺スルモノヲ用フヘシ但自家用料酒免許料臺帳及醬麴營業税臺帳ハ之レニ準ス

△十六年以后新タニ免許シタルモノハ此處ニ(新規)ノ二字ヲ朱書スヘシ

住 所

氏 名

酒造場位 置

免 許 鑑 札

書 換

再 渡

番 號 年 月 日

繼

續

證

事

故

印

(第五號)
明治何年分
酒類造石税臺帳

間税署何分署

△備考

一 酢元用石税臺帳ハ本帳ニ準シ調製スヘシ
一 殘額欄内ノ税額ハ每期累計ヲ爲スヘシ
一 本帳記入ノ石高ハ検査臺帳ニ據リ移記スルモノナレハ之レカ記入ヲ了シタルトキハ検査臺帳檢査済石數ノ冒頭ニ主任捺印シ主務掛ヘ返付スヘシ

郡市町村番地

何ノ某

第 一 期

類 別	石 高	税 額	賦 課 額	殘 税 額	石 免 税	税 差 引 更 定 額	事 故
一 類							
二 類							
三 類							

住 所 氏 名	事 氏 名	免 許 鑑 札 書 換 再 渡 製 造 場 位 置	日 月 年 號 番	繼 續 證 印	繼 續
			日 月 年 號 番	繼 續 證 印	繼 續
(第七號) 明治何年十月ヨリ 醬麴營業稅臺帳 間稅署何分署			(第八號) 明治何年度ヨリ 醬油製造營業稅臺帳 間稅署何分署		

住 所 氏 名	事 氏 名	免 許 鑑 札 書 換 再 渡	日 月 年 號 番	入 押	繼 續 證 印
			日 月 年 號 番	入 押	繼 續 證 印
(第七號) 明治何年十月ヨリ 醬麴營業稅臺帳 間稅署何分署			(第八號) 明治何年度ヨリ 醬油製造營業稅臺帳 間稅署何分署		

(第十二號) 明治何年度ヨリ 菓子製造稅臺帳 問稅署何分署				住 所 氏 名	號	札	鑑	
					年	期	種	
					賣	上	金	高
					稅			金
同	何	年	年	年				
年	年	第	第	第				
第	第	一	一	一				
二	二	期	期	期				

(第十三號) 明治何年度ヨリ 賣藥稅臺帳 問稅署何分署		住 所 氏 名
藥	名	
	新規 鑑札下付年月日 書換	
	鑑札番號	
	水火盜難 下附年月日 書換	
	鑑札番號	
	事	
	故	

△備考
一 一個人免許ニ係ル請賣藥ヲ悉ク列載スヘシ

(第十四號) 明治何年度ヨリ 諸印紙類賣捌人臺帳 問稅署何分署		住 所 氏 名
藥	名	
	新規 鑑札下付年月日 書換	
	鑑札番號	
	水火盜難 下附年月日 書換	
	鑑札番號	
	事	
	故	

△備考
 一資格欄内へハ受恩典者ノ區別ヲ掲ケ受恩典者ハ印紙賣捌規程該當ノ條目恩典者ハ免許期限ヲ付記スヘシ

住所
 氏名

資格
 故事

印紙種類
 新標
 規下
 附年月日
 再
 渡
 下附年月日

(第十五號)
 明治何年十月ヨリ
 酒造營業人所有不動産届出高及保證物保證人臺帳
 間稅器何分署

△備考

一保證人所有不動産額ハ保證人所得納稅者ナレハ記入ヲ要セス

住所
 氏名

酒造
 目酒
 造石
 高免
 許年
 月日
 鑑札
 番號
 酒造
 場位
 置

出賣時所有額

但賦課期日後納稅前ニ於テ他ヘ轉出スルモノハ其際之ヲ徵收ス

縣令 第一百十九號 明治二十二年十二月二十八日

地方稅支出費目中ヘ衆議院議員選舉費ノ一項ヲ增加シ明治二十三年度ヨリ施行ス

縣令 第一百二十八號 明治二十二年十二月二十八日

地方稅財產保管方通常縣會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

一金七百五拾八圓貳拾五錢七厘

一金千六百九拾圓五拾五錢三厘

一金八圓三拾四錢壹厘

衛生恩賜金 水災恩賜金 救育費

右明治二十三年三月三十一日マテ第十二國立銀行ヘ利付トシ預入レアリシ處同年四月一日以後仍ホ引續キ同銀行ヘ預置クモノトス

縣令 第一號 明治二十四年一月十六日

地方稅費目中ヘ縣會ノ決議ヲ經テ其筋ノ裁可ヲ得テ備蓄儲蓄借入償還金ノ一項ヲ增加シ明治二十四年度ヨリ施行ス

縣令 第三號 明治二十四年二月十六日

縣稅徵收法施行細則縣會ノ決議ヲ經テ明治二十四年四月一日ヨリ左ノ通施行ス

縣稅徵收法施行細則

第一條 徵收法第五條ニ依リ町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號樣式各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第二號樣式ニ依リ調製スヘシ

第二條 徵收法第六條ニ依リ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號樣式ニ依リ調製スヘシ

第三條 納期アル徵收ニ付郡長ヨリ各町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ納期末日ヨリ二十日以前

〔納期ノ〕市長ヨリ各納稅人ニ發スル徵稅令書及町村長ヨリ各納稅人ニ發スル徵稅令書ハ納期

三日以前

末日ヨリ十五日以前

〔納期前〕之ヲ發スヘシ

日稅新規開業ノ稅其他隨時收入ニ係ルモノハ七日以内ニ於テ適宜納期ヲ定メ其都度徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ

第四條 郡長徵稅令書ヲ發付シタル後ニ於テ稅額ニ異動ヲ生シタルトキ其增額ニ係ルモノハ更ニ徵稅令書

〔其事由テ發付〕ヲ發付シ減額ニ係ルモノハ其事由及金額等ヲ詳記シ町村長ニ告知スヘシ

第五條 市長徵稅令書ヲ發付シタル後ニ於テ稅額ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ徵稅令書

〔其事由テ發付〕ヲ發付シ交換スヘシ

町村長徵稅傳令書ヲ發付シタル後ニ於テ郡長ヨリ減額ノ告知ヲ受ケタルトキハ其更定稅額ヲ以テ更ニ徵稅傳令書

〔其事由テ發付〕ヲ發付シ交換スヘシ

第六條 市町村長ニ於テ地租割船車稅水車稅乘馬稅ノ徵稅令書若クハ徵稅傳令書發付以後納期限以前ニ於テ其所有權移轉スルモノアルトキハ更ニ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ更正スヘシ但船車乘馬ヲ他市町村ノモノヘ賣渡タルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ取消シ市長ハ納稅未納ナルトキ即時所轄郡長ニ通報シ町村長ハ其事由ヲ郡長ニ通告スヘシ其賣渡他府縣ニ係ルモノハ此限リニアラス

第七條 各納稅人ニ於テ稅金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ムトキハ徵收令書若クハ徵稅傳令書ヲ添付スヘシ

第八條 市町村長ハ毎日市町村收入役ニ於テ受領シタル稅金ヲ受取リ第四號樣式ノ納付書ヲ製シ翌日限リ縣稅出納所又ハ其出張所ニ拂込ムヘシ

第九條 市町村長稅金ヲ拂込タルトキハ縣稅出納所又ハ其出張所ノ領收印ヲ得即時之ヲ當該出納

吏ニ差出スヘシ出納吏ハ其證書ニ記名捺印シ別符ヲ切離シテ領收證ハ市町村長ニ返付スヘシ
第十條 縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此細則ハ地方税ノ徵收ニ適用ス

第一號樣式 用紙適宜縦四寸五分 横三寸三分

(△印ハ朱符)

第 號	定期(隨時)	何郡何村町長氏名納
	明治何年度	何 期 何 税
出納吏官氏名扱		
稅 割 印		
一金何程 ○—取扱主任者印		
右明治何年何月何日限リ當郡縣稅出納所又ハ出張所 ニ納付スヘシ		
明治何年 何月何日	富山縣令官 氏 名印	

備考
地租割戸數割ハ郡部ト郡市連帶ト
區別發布スルモノトス但市ニ於テ
ハ便宜ニ依リ列記スルモ幼ナシ
納期ヲ月稅ハ何月分トシ日稅ハ何
日分ト記入スヘシ

第 二 號 樣 式	
用紙適宜 <small>縦四寸五分 横三寸三分</small> モノ二枚	
第 號	何郡何町(村)氏名納
明治何年度	何 期 何 稅
稅 割 印	
一金何程 ○—取扱主任者印	
明治何年 何月何日	何郡何町(村)長氏名印
右來ル何月何日限リ當町(村)收入從ニ相納スヘシ	
明治何年何月何日限收 ○—收入從ノ印	
第 號	何郡何町(村)氏名納
明治何年度	何 期 何 稅
稅 割 印	
一金何程 ○—取扱主任者印	
明治何年 何月何日	何郡何町(村)收入從氏名印
右領收候也	
○—町長捺印	
○—一金何程 ○—取扱主任者印	
右領收候也	

備考
區市郡縣割租割
區別發布スルモノトス但市ニ於テ
ハ便宜ニ依リ列記スルモ幼ナシ
納期ヲ月稅ハ何月分トシ日稅ハ何
日分ト記入スヘシ

訓令第二百四十四號 明治二十二年十一月二十二日 郡役所 収稅部出張所
 地方稅ヲ賦課スヘキ船車左ノ場合ニ係リタルトキハ收稅部出張所ニ於テ處分ノ後直チニ該届書又ハ報告書モノヲ除クテ郡役所ヘ同附スヘシ郡役所ニ於テハ速カニ臺帳ヘ登記ノ上収稅部出張所ヘ返附スヘシ

一新調變更解破賣買讓與亡失セシトキ
 一馬車馬匹ノ數ヲ増減シタルトキ
 一所有者改姓名又ハ轉居シタルトキ

訓令第六號 明治二十三年一月十七日 郡役所 市役所 町村役場
 地方稅收入豫算及營業稅雜種稅課目課額中取扱方左ノ通相定ム

第一條 戶數割ハ市町村長ニ於テ一月一日現在ノ戶數ヲ調査シ之レニ定率ヲ乘シテ各市町村ノ負擔金額ヲ算定シ其負擔金額ニ基キ該市町村會ノ決議ヲ以テ每戶ノ等級課額ヲ査定スヘシ

第二條 町村長ハ前條ニ依リ査定シタル每戶ノ等級課額ヲ製表シ郡長ニ報告スヘシ其査定後賦課期日前戶數ニ異動ヲ生シタルトキハ毎賦課期日ヨリ三日以内ニ報告スヘシ

第三條 戶數割每戶ノ等級課額決定後管内他ノ市町村ニ移轉スルモノアルトキハ其既定課額ヲ轉出地ノ市町村長ヨリ轉入地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第四條 戶數割每戶ノ課額ヲ四分シテ端數以下ヲ生スルトキ其端數ニ對スル收入ハ各期內ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ルト雖モ既定ノ課額ヲ増減スルヲ得ス

第五條 商業中卸賣仲買小賣雜商工業中職業職工寫眞師染物屋及雜種稅中料理屋待合茶屋遊船宿飲食店湯屋理髮人ノ稅ハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

一 郡長ハ一月一日現在營業者ノ員數ニ依リ各町村ノ負擔金額ヲ定メ町村長ニ達スヘシ

二十四年二月
 訓令第十八號
 以テ本條中
 追加

二 町村長ハ郡長ノ達ヲ受クレハ町村會ヲ開キ負擔金額ニ基キ其決議ヲ以テ營業者各自ノ課額ヲ査定シ之ヲ製表シテ郡長ニ報告スヘシ

三 市長ハ一月一日現在營業者ノ員數ニ依リ其市ノ負擔金額ヲ定メ其負擔金額ニ基キ市會ノ決議ヲ以テ營業者各自ノ課額ヲ査定スヘシ

第六條 每期ノ納稅前ニ於テ他ノ市町村ヘ轉居シ引續キ同一ノ營業ヲ爲スモノアルトキハ轉出地ノ市町村長ヨリ轉入地ノ市町村長ニ元住地位等級又ハ既定ノ課額ヲ通知スヘシ

訓令第六十四號 明治二十三年四月十一日 郡役所 市役所 町村役場
 地方稅中戶數割營業稅雜種稅ヲ納ムルモノニシテ逃亡若クハ失踪シ納期限ヲ過キ滯納處分ヲ了シタル者次期ニ至リ徵稅ノ手續ヲナスノ際尙ホ其所在ヲ知ル能ハサルトキハ戶數割ハ廢戶諸營業ハ廢業物件ニ課稅スルモノハ物件紛失ト見做シ地方稅臺帳ヨリ之ヲ除去スヘシ

訓令第八十四號 明治二十三年五月二日 郡役所 市役所 町村役場
 明治二十二年法律第三十二號ニ依リ地方稅及市稅町村稅滯納處分ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 國稅滯納處分法第二條其他ニ掲グル收入官吏ノ事務ハ地方稅ハ郡市長市稅ハ市參事會町村稅ハ町村長ハ町村長ニ於テ取扱フヘシ

第二條 國稅滯納處分法第十二條ノ財產差押命令書ハ地方稅ハ郡市長市稅ハ市參事會町村稅ハ町村長ニ發スヘシ

第三條 國稅滯納處分法第四十條ノ買受望人ナキ物件ノ買上代金市町村稅ニ係ルモノハ特ニ費目ヲ設ケス雜支出ヨリ支辨スヘシ

第四條 國稅滯納處分法第十一條ノ嘱托ハ市長市參事會及町村長ニ在テハ經山ヲ要セス直チニ他ノ市長市參事會及町村長ニ嘱托スヘシ

第五條 市町村稅ノ督促ニ關スル規定ハ市制町村制第百二條ニ依ルヘシ

第六條 各滞納稅金控除ヲ要スルトキノ順序ハ先ツ地方稅ヲ徵シ次ニ市町村稅ニ及ホスヘシ而シテ同時ニ同稅二種以上ヲ徵收スル場合ニ於テハ各其不納額ニ應シ分配スルモノトス

訓令 第六號 明治二十四年一月十六日 郡役所 警察署 尋常師範學校 尋常中學校

地方稅ヲ以テ支辨スル書籍ノ購求學校教科書ヲ除クヲ要スルトキハ自今其必要ノ事由ヲ具シ允許ヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ

訓令 第四十四號 明治二十四年三月二十三日 郡市役所 町村役場 縣稅收納順序左ノ通相定ム

縣稅收納順序

第一條 知事ハ町村ノ徵收ニ關スル收入命令ヲ郡長ニ市ノ徵收ニ關スル收入命令ヲ市長ニ委任ス

第二條 町村ノ徵收ニ關スル出納吏ハ郡長市ノ定期徵收ニ關スル出納吏ハ本廳第四課長市ノ隨時徵收ニ關スル出納吏ハ市長トス

第三條 郡市長徵稅令書ヲ發付シタルトキハ即日歲入調定額ヲ當廳ニ報告シ該納額ヲ當該出納吏ニ通達スヘシ

第四條 歲入調定額報告後増減ヲ生シタルトキハ其都度歲入調定額増減報告書ヲ差出スヘシ

第五條 徵稅令書發付後稅額ニ異動ヲ生シタルトキハ即時其増減額ヲ當該出納吏ニ通達スヘシ

第六條 出納吏ハ毎月收入計算表ヲ製シ月計對照表縣稅出納所又ハ其出張所ヨリ發出シタルモノヲ添付シ翌月五日限差出スヘシ

第七條 市ノ納稅人ニシテ納期限ヲ過キ該滞納稅金ヲ納入セントスルモノアルトキハ市長ハ發

ニ發付シタル徵稅令書ニ現金ヲ添ヘ收入役ニ拂込マシムヘシ

第八條 町村ノ納稅人ニシテ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサルモノアルトキハ町村長ハ其滞納ノ稅目金額及滞納人ノ住所氏名ヲ記載シ納期限ノ翌日郡長ニ報告スヘシ

第九條 前條滞納報告以前ニ於テ該滞納稅金ヲ納入セントスルモノアルトキハ町村長ハ發付シタル徵稅傳令書ニ現金ヲ添ヘ收入役ニ拂込マシムヘシ

第十條 第八條ノ滞納報告後該滞納稅金ヲ納入セントスルモノアルトキハ縣稅徵收法施行細則第八條ノ納付書ニ準シ本人ヲシテ縣稅出納所又ハ其出張所ニ納付セシメ別符付領收證ヲ得即時之ヲ出納吏ニ差出シ別符ノ切離及領收證ノ交付ヲ請ハシムヘシ

前項別符ノ切離ヲ請フモノアルトキハ出納吏ハ即時領收ノ手續ヲ爲シ別符ヲ切離シ領收證ハ納人ニ交付スヘシ但其納期稅目稅額納人ノ住所氏名ハ即日之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第十一條 稅金不納ニ付滞納處分ノ末郡市長ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ縣稅徵收法施行細則第八條ニ準シ取扱フヘシ

第十二條 郡市長滞納處分ヲ爲シタルトキハ每期處分完結後三日以内ニ於テ當廳ニ報告スヘシ

第十三條 滞納處分ノ末損失ニ歸セン金額アルトキハ其納期稅目金額町村名等ヲ當該出納吏ニ通達スヘシ

第十四條 誤納其他ノ事故ニ依リ既納稅金ノ下戻ヲ要スルトキハ其事由及稅目金額等ヲ詳記シ市長ハ直チニ之ヲ請求シ町村長ハ郡長ノ調査ヲ經テ請求スヘシ

第十五條 郡市長ハ徵稅令書元帳ヲ備ヘ郡長ハ町村毎ニ市長ハ納入毎ニ其金額納期等ヲ區分登記スヘシ

出納吏ハ徵稅簿及收入簿ヲ備ヘ徵稅簿ニハ每市町村及金額納期收入濟額等ヲ區分登記シ收入簿

ニハ調定額収入濟額収入未濟額等ヲ登記スヘシ
 縣稅出納所又ハ其出張所ハ現金出納簿及収入内譯簿ヲ備ヘ現金出納簿ニハ現出納ヲ登記シ收入内譯簿ニハ出納吏毎ニ區分登記スヘシ
 第十六條 縣稅出納所又ハ其出張所ニ於テ税金ノ納付ヲ受ケタルトキハ領收ノ手續ヲ爲シ納付書ハ切離シテ之ヲ留メ置キ其別符付領收證ハ納人ニ交付スヘシ
 第十七條 縣稅出納所又ハ其出張所ハ毎日切離シタル納付書ノ金額ヲ計算シ郡部ニ係ルモノト郡市運帶ニ係ルモノトヲ區別シタル送納書ヲ製シ毎日當廳ニ送納スヘシ但收入金ノ百圓ニ滿クサルトキハ翌月ニ涉ラサル限リ便宜取總メ送納スルコトヲ得
 前項送納書ハ中央出納吏ヨリ之ヲ縣稅出納所ニ交付スルヲ以テ送納ノ手續ヲ了シタルモノトス
 第十八條 縣稅出納所又ハ其出張所ハ毎月収納シタル税金ニ對シ各年度ニ區分シタル月計對照表ヲ調製シ翌月三日限リ當該出納吏ニ送付スヘシ
 第十九條 郡市長ハ每年度歲入調定額計算表及滯納處分損失金計算表ヲ製シ翌年度五月三十一日限リ差出スヘシ
 第二十條 出納吏ハ每年度收入額決算表ヲ製シ翌年度五月三十一日限リ差出スヘシ
 第二十一條 帳簿ノ様式其他ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム
 第二十二條 此順序ハ明治二十四年度所屬ノ徵收ヨリ之ヲ施行ス
 ●訓令第四十六號 明治二十四年三月二十二日 郡市役所 警察署 縣立學校
 地方稅雜收入收納規程別冊ノ通相定ム
 (別冊)
 地方稅雜收入收納規程

第一條 雜收入ハ收入命令者ニ於テ其收入ヲ調定シ收入告知書ヲ各納人ニ發シ出納吏ヲシテ収納ヲ取扱ハシム
 但懲罰金、手数料、違約金、滯納處分費、投業料、格議シ難キ不用物品代ノ類ハ收入告知書ヲ發セス出納吏ハ收入調定書ニ依リ直ニ現金ヲ收納スルコトヲ得
 第二條 知事ハ郡長警察署長縣立學校長ニ收入ノ命令ヲ委任ス
 第三條 本廳ハ第四課長郡役所ハ會計ヲ掌ル首席郡書記警察署ハ內勤警部縣立學校ハ首席書記ヲ以テ雜收入出納吏トス
 第四條 收入告知書ヲ發スルトキハ所屬出納吏ヲシテ納人ニ交付セシムヘシ
 收入告知書ヲ交付シタルトキハ納人ヲシテ其告知書ニ現金ヲ添ヘ縣稅出納所又ハ其出張所ニ拂込テ爲サシムヘシ
 第五條 縣稅出納所又ハ其出張所ニ於テ前條ノ拂込ヲ受ケタルトキハ收入告知書ハ之ヲ領收シ領收證ハ直チニ納人ニ交付シ別符ハ即日當該出納吏ニ送付スヘシ
 第六條 出納吏ニ於テ現金ヲ收納シタルトキハ領收證ヲ納人ニ交付シ現金ハ即日納付書ヲ添ヘ縣稅出納所又ハ其出張所ニ納付スヘシ
 第七條 縣稅出納所又ハ其出張所ニ於テ前條ノ納付ヲ受ケタルトキハ納付書ハ之ヲ領收シ領收證ハ直チニ當該出納吏ニ交付シ別符ハ即日本廳出納吏ニ送付スヘシ
 第八條 縣稅出納所又ハ其出張所ニ於テ領收シタル現金ヲ本廳ニ送納スルノ順序ハ縣稅金送納ノ手續ニ據ルヘシ
 但本廳出納吏ノ納付ニ係ルモノハ此限ニアラス
 第九條 收入命令者ハ調定元帳ヲ備ヘ納人毎ニ金額納期等ヲ區分登記スヘシ

出納吏ハ現金出納簿、收入簿、及監査簿ヲ備ヘ現金出納簿ニハ現出納ヲ登記シ收入簿ニハ調定額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記シ監査簿ニハ納人毎ニ金額納期等ヲ區分登記スヘシ
 但監査簿ハ前項ノ調定元帳ヲ以テ兼用スルコトヲ得
 縣稅出納所及其出張所ハ現金出納簿、收入內譯簿ヲ備ヘ現金出納簿ニハ現出納ヲ登記シ收入內譯簿ニハ出納吏毎ニ區分登記スヘシ
 第十條 出納吏ハ毎月收入計算表ヲ調製シ左ノ書類ヲ添付シ翌月五日迄ニ差出スヘシ
 但本廳外ノ出納吏ハ所管命令者ヲ經由スヘシ
 一 收入告知書ノ金額納期日細別表
 一月計對照表 〔預稅出納所又ハ其出張所ヨリ差出シタルモノ〕
 一 收入調定書 〔收入命令者ニ於テ調定シタル原書及附屬書類共〕
 第十一條 縣稅出納所及其出張所ハ毎月領收シタル現金ニ對シ月計對照表ヲ調製シ翌月三日迄ニ當該出納吏ニ差出スヘシ
 第十二條 委任ヲ受ケタル收入命令者ハ毎年度收入ノ調定額計算表ヲ調製シ翌年度五月三十一日マテニ差出スヘシ
 第十三條 出納吏ハ毎年度收入決算表ヲ調製シ翌年度五月三十一日マテニ差出スヘシ
 第十四條 賦金及年度後追徵金ハ府縣稅徵收法其他ノ規程ニ隨ヒ之ヲ收納スヘシ
 第十五條 帳簿ノ格式其他ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム
 第十六條 此規程ハ明治二十四年度所屬ノ收納ヨリ之ヲ施行ス
 ○備荒儲蓄
 縣令第六號 明治二十四年一月三十一日

本縣備荒儲蓄法施行規則縣會ノ決議ヲ經其筋ノ許可ヲ得テ左ノ通相定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス
 但明治二十三年三月三十一日以前ニ本縣々令第二十一號備荒儲蓄法施行規則ハ本年三月三十一日限廢止ス
 備荒儲蓄法施行規則
 第一條 儲蓄金ハ縣廳之ヲ管守シ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ノ救助ニ充ツヘキモノトス
 第二條 儲蓄金ハ臨時支出ニ供スル豫備金ヲ除クノ外總テ公債證書ニ換儲スヘキモノトス
 第三條 豫備金ハ定期又ハ當座預ケトシ第十二國立銀行ニ預ケ入ル、モノトス但臨時救助ノ費用トシテ金貳百圓宛各郡市役所ニ備置シコトヲ得
 定期又ハ當座預ケ金ニ對スル抵當ハ公債證書ニ限ルヘシ
 第四條 豫備金ハ前年度ノ豫備殘金及公債證書並預ケ金ヨリ生スル利子其他臨時ノ收入ヲ以テ之ニ充ツルモノトス
 第五條 預備金 〔郡市役所備置ノ額ハ一週年度大凡金壹万円ヲ目的トシ之ニ超過スル額ハ便宜公債證書ニ換儲スルモノトス〕
 第六條 公債證書ノ當籤シタルモノアルトキハ更ニ公債證書ニ換儲スルモノトス但當籤金額寡少ナルトキハ豫備金ニ合併シ定期又ハ當座預ケト爲スコトヲ得
 第七條 預備金ヲ以テ救恤シ難キ場合ニ於テハ便宜公債證書ノ幾部ヲ賣却スルコトアルヘシ
 第八條 救助金ノ遞送及公債證書ノ賣買並救助ニ關シ要スル所ノ費用ハ總テ儲蓄金ノ内ヨリ支出スルモノトス
 第九條 公債證書ヲ賣買スルニ由リ生シタル損益ハ總テ儲蓄金ノ損益ニ歸スルモノトス

第十條

救助ハ食料、小屋掛料、農具料、種穀料ノ四種ニ分テ左ノ各項ニ照シ救助スルモノトス

第一項 食料ハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハス且他ニ救助ノ途ナキモノニ限り左ノ制限ニ依リ
輕災ハ十五日以内重災ハ三十日以内之ヲ給與ス

一男一人 一日金貳錢五厘
一女一人 一日金貳錢

一年齡七十歳以上十三歳未滿ノ者ハ男女ヲ問ハス一人一日金壹錢五厘

第二項 小屋掛料ハ罹災ノ爲メ居宅ヲ亡失又ハ潰獲シ自ラ小屋掛ヲ營ム能ハス且他ニ救助ノ途
ナキモノニ限り左ノ制限ニ依リ之ヲ給與ス但借家又ハ同居ノ者ハ給與スルノ限リニアラス

一一家一人ノモノ輕災ハ金貳圓以内重災ハ金三圓以内

一一家二人ノモノ輕災ハ金貳圓五拾錢以内重災ハ金三圓五拾錢以内

一一家三人ノモノ輕災ハ金三圓以内重災ハ金四圓以内

一一家四人ノモノ輕災ハ金三圓五拾錢以内重災ハ金四圓五拾錢以内

一一家五人ノモノ輕災ハ金四圓以内重災ハ金五圓以内

一一家六人以上ハ一人ヲ加フル毎ニ金五拾錢ヲ増ス但輕災ハ金七圓重災ハ金八圓ニ止ム

第三項 農具料ハ罹災ノ爲メ現時必要ノ農具ヲ亡失又ハ毀壞シ自ラ之ヲ購求スルノ資力無ク且
他ニ救助ノ途ナキモノニ限り左ノ制限ニ依リ實價ヲ以テ之ヲ給與ス但農具本業トセサルモノ
ハ給與スルノ限リニアラス

一一家農夫男女ヲ問ハス現ニ耕
耘ニ従事スルモノ一人ノモノ輕災ハ金貳圓以内重災ハ金三圓以内

一一家農夫二人ノモノ輕災ハ金三圓以内重災ハ金四圓以内

一一家農夫三人ノモノ輕災ハ金四圓以内重災ハ金五圓以内

一一家農夫四人ノモノ輕災ハ金五圓以内重災ハ金六圓以内

一一家農夫五人ノモノ輕災ハ金六圓以内重災ハ金七圓以内

一一家農夫六人以上ハ一人ヲ加フル毎ニ金壹圓ヲ増ス但輕災ハ金八圓重災ハ金拾圓ニ止ム

第四項 種穀料ハ罹災ノ爲メ現時必要ノ種穀ヲ亡失シ自ラ之ヲ購求スルノ資力無ク且他ニ救助
ノ途ナキモノニ限り罹災ノ輕重及土地ノ情況ニ依リ耕地一反歩ニ付三升以上六升以下其實價
ヲ以テ之ヲ給與ス但農具本業トセサルモノハ給與スルノ限リニアラス

種穀料ノ救助ハ一石ニ付金五圓ヲ超過スルヲ得サルモノトス

第十一條 罹災ノ情況ニ依リ臨時焚出米及鹽噌ヲ給スルコトアルヘシ但焚出米ハ總テ第十條第一
項ノ制限ニ依リ之ヲ給與シ鹽噌ハ一日一金壹錢以内ヲ以テ之ヲ給與ス

第十二條 焚出米ノ給與ヲ止メタル後食料ノ救助ヲ請フモノハ第十條第一項ノ制限ニ依リ之ヲ給
與ス但焚出米給與ノ日數ハ其救助日數ニ算入ス

第十三條 罹災ノ情況ニ依リ假ニ小屋掛ヲ營ミ又ハ他ノ家屋ヲ借上ケ一時其急ヲ救フコトアルヘ
シ但本條ノ救助ヲ受ケタルモノト雖モ借屋又ハ同居ノ者ヲ除クノ外ハ第十條第二項ノ制限ニ依
リ小屋掛料ヲ給與スルコトヲ得

第十四條 罹災ノ爲メ所有地ノ四十分一以上又ハ家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハ
サルモノニ限り其不納額ヲ補助又ハ貸與スルコトアルヘシ但地租金五圓以上ヲ納ムルモノハ補
助スルノ限リニアラス

第十五條 貸與金ハ左ノ方法ニ依リ返納セシムルモノトス

一貸與シタル翌年ヨリ無利息五ヶ年以内ノ年賦トシ毎年十一月三十日限リ之ヲ返納セシム

一前項ノ年期中再ヒ災害ニ罹リ地租ノ貸與ヲ受クルモノハ前年期限ノ翌年ヨリ更ニ新規返納

第七項 備置諸事

二二七

ノ年限ヲ起算ス
 一 地租貸與ニ對スル土地荒地トナリタルトハ年賦金ノ殘額ヲ棄指ス
 一 地租貸與ニ對スル土地ノ全部若クハ幾部ヲ賣却又ハ讓與スルトキハ其殘額ヲ一時ニ返納セシム
 一 但家督ニ依リ相續シタル者ハ其義務ヲ繼續セシム
 第十六條 此規則ニ依リ救助スヘキモノハ罹災ノ翌日ヨリ十五日以内ニ所轄郡市役所ニ願書ヲ差出シタルモノニ限ル

●告示第九十三號 明治二十二年八月三十日
 備荒儲蓄小屋掛料農具料種穀料救助出願書式及救助金額收證書式左ノ通相定ム

- 一金何程 救助願
- 内
 - 小屋掛料
 - 農具料
 - 種穀料
 - 金何程 但家族何人
 - 金何程 但農夫何人
 - 内
 - 何品何個一個ニ付金何程
 - 何々何個一個ニ付金何程
 - 金何程 但何種何升一升ニ付金何程

私儀何月何日何災ニ罹リ候處親戚故舊等(無之)(ヨリ救援ヲ受クヘキモノモ無之)日下生活ニ指支困難仕候間前記ノ如ク御救助被下度奉願候也

富山縣何_{市郡}何_{村町}大字何_{村町}何_{番地}

年 月 日 職 業 何 某 印

知 事 宛 領 收 證

一金何程 但何月何日何災ニ罹リ御救助金

内

- 金何程 但家族何人 小屋掛料
- 金何程 但農夫何人 農具料
- 内
 - 何品何個一個ニ付金何程
 - 何々何個一個ニ付金何程
- 金何程 但何種何升一升ニ付金何程

右領收候也

富山縣何_{市郡}何_{村町}大字何_{村町}何_{番地}

年 月 日

知 事 宛

何 某 印

訓令第二百二十六號 明治二十二年八月三十日

郡 役 所 市 役 所

備荒儲蓄救助取扱順序左ノ通改正ス

備荒儲蓄救助取扱順序

第一條 食料ノ救助ヲ願出ル者アルトキハ之ヲ審査シ明治二十年六月達第五百五十二號貧困患者救濟規程第三條ニ該當スルモノニ限リ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ許可シタル救助金ハ豫備金ヲ以テ即日支拂ナシ第一號書式支拂證明書ニ正當本人領収證書ヲ添ヘ請求スヘシ若シ貧困患者救濟規程第三條ニ適當セサルモノニシテ特ニ救助ヲ要スルトキハ豫メ具狀シテ認可ヲ受クヘシ

第二條 小屋掛料農具料種穀料ノ救助ヲ願出ル者アルトキハ之ヲ審査シ救助ヲ要スルト認ムルモノハ其願書ニ副中ヲ爲シ指出スヘシ

第三條 副中ハ救助ノ必要ナル實情事由ヲ詳密明瞭ニ記載シ再往復等ノ煩ニ涉ルコトナキ様注意シ尙第二號書式本人等ノ身元調ヲ添フヘシ

第四條 小屋掛料農具料種穀料ノ救助ヲ許可シタル指令書到達セハ直ニ豫備金ヲ以テ救助金ヲ下附シ第一條ニヨリ請求スヘシ

第五條 罹災ノ景況ニヨリ焚出米ヲ給シ又ハ假ニ小屋掛料等ヲ必要トスルトキハ郡市長ニ於テ直ニ施行シ其費用ハ正當本人領収證書ヲ添ヘ第一條ニ準シ請求スヘシ

第六條 豫備金不足ノトキハ第三號書式ニヨリ請求シ殘餘ヲ生セシトキハ第四號支拂證明書ト共ニ第五號書式ニヨリ速ニ返納スヘシ

第七條 食料支給日數兩年度ニ跨ルトキ 三月二十二日罹災ノ者同日ヨリ十五日間救助スルトキハ前年度二十一年度ニ區分精算スヘシ 日后年度ニ五日ト區分スルカ如シ焚出米ニ屬スル諸費モ之ニ同シ

第八條 小屋掛料農具料種穀料ハ罹災ノ日ヲ以テ年度ヲ區分スヘシ

第九條 罹災者貧窮ト雖ヒ親戚故舊等ノ援助アルモノハ救助ノ限リニアラサルコト勿論ナリトス

第十條 支拂證明ハ救助施行后七日以内ニ指出スヘシ

第十一條 毎年度ノ救助皆濟ヲ翌年度四月二十二日限リ第六號書式ニヨリ上申スヘシ

第十二條 領収證書ハ災害ノ種類毎ニ別冊トシ表紙ニ年度金員合計證書枚數郡市名ヲ記載シ合計金額及證書一通毎ニ調査主任ノ小印ヲ押シ證明スヘシ

第十三條 郡市長ニ於テ施行スルモノニ屬セル領収證書ハ左ノ麻々ヲ詳記セシムルヲ要ス
一 食料ハ金額罹災月日災害種類救助月數十三歳以上七十歳未満男或ハ女七十歳以上十三歳未満人員一日一人ノ支給額區分
二 焚出米等ハ金額品目員數單價

(第一號) 何年度罹災救助金支拂證明書

一金何程 何災救助
内 食料

金何程 但何箇村合延人員何人分此現人員何人 小屋掛料
但何箇村何戸

二十三年三月
訓令第七九號ヲ
以テ本條中ヲ
改正ス

二十三年四月
訓令第五十六
號ヲ以テ本條
改正ス

金何程

器具料

但何箇村何戸

金何程

種穀料

但何箇村何戸

右者何月何日(何村)(外何箇村)何災ニ罹リタル貧民備荒儲蓄法ニヨリ(郡市長ニ於テ救助許可)

(及)(御慮ニ於テ救助許可)ノ分豫備金ヲ以テ支拂高ニ有之候間御下渡相成度此段證明候也

年 月 日

何市長 姓 名 印

知 事 宛

(此書而ハ災害ノ種類毎ニ各別ニ調製スルヲ要ス)

(第二號)

身元調書

何市何町大字何村何番地自宅住居或ハ借家住居又ハ同居

何 某

職業生活ノ度及資産

何商何職或ハ農業ヲ營ミ家族男女十四歳以上七十歳未満ノモノヲ云フ何人老幼十三歳以下七十歳以上ノモノヲ云フ何人戸主ハ多病又ハ何々

ニヨリ常ニ貧窮ヲ極メ或ハ普通ノ生活ヲナシ資産ハ地所地價大凡何程ヲ所有シ何業ノ餘暇自身

之ヲ耕シ或ハ他人ニ貸與シテ若干ノ利潤ヲ得又ハ何株券何程其他ノ資産見積何程或ハ財産皆無

又ハ他人ノ地所大凡何反歩ヲ借り受作ヲ以テ生業トス又ハ何々ニヨリ何々今回罹災ニ付家屋其

他ノ財産悉皆流失燒盡又ハ家屋ヲ失フト雖モ財産全部又ハ幾部分ハ全キコトヲ得(以下詳記)

親戚故舊

何市何町何某何業ニテ地所ハ地價大凡何程其他ノ資産大凡何程ヲ所有シ何市何町何某ハ何業ヲ營
ミ資産大略何程ヲ有シ何々ノ緣故ヲ以テ常ニ生計ノ幾分ヲ助ケ或ハ今回罹災ニ付何々贈與或ハ
何々ニヨリ救援セス(以下詳記)

何々

何々

(以下救助ニ關シ参照トナルヘキ事アレハ洩ナク記載ヲ要ス)

右者今回御救助願出候ニ付本人身元等ニ付取調ノ件前記ノ通有之候也

年 月 日

何市長 姓 名 印

知 事 宛

(此調書ハ願書一通毎ニ一通宛添附ヲ要ス)

(此調書中記載ノ廢々ハ調査上尤必要ノモノニ付極メテ詳密ニ記載スルヲ要ス)

(第三號)

何年度罹災救助金凡積請求書

一金何程 豫備金不足ニ付請求ノ分

右ハ何月何日何方何災ニ罹リ備荒儲蓄法ニヨリ救助金下附スヘキ處豫備金不足ニ付本額御下渡相

成度此段請求候也

何市長 姓 名 印

知 事 宛

(第四號)

何年度罹災救助金支拂證明書

一金何程 元受高
 但像備金不足ニ付何月何日御下渡ノ分
 何災救助支拂高

内
 食料
 小屋掛料
 農具料
 種穀料

金何程 但何箇町合延人員何人此現人員何人
 金何程 但何箇町何戸分
 金何程 但何箇町何戸分
 金何程 但何箇町何戸分
 金何程 但何箇町何戸分
 (元拂殘高)
 (但何月何日還納)

右ハ何月何日何町何災ニ罹リ備荒儲蓄法ニヨリ救助金支拂精算高相違無之候也
 年 月 日 何町長 姓 名 印
 知 事 宛

(第五號)
 何年度罹災救助金還納書
 一金何程

但何月何日備荒儲蓄救助金凡積御下渡支拂殘高
 右還納候也

年 月 日 何町長 姓 名 印
 知 事 宛

(第六號)
 備荒儲蓄救助皆濟上申
 何年度備荒儲蓄救助金ノ請求及精算一切無之此段上申候也
 年 月 日 何町長 姓 名 印
 知 事 宛

○町村費
 ●訓令 第百八號 明治二十二年四月四日
 從來町村費ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタルモノ其寄附者指定ノ事業又ハ費途ヲ廢絶シタル場合ニ於テ其ノ金穀物件ハ左ノ各項ニ據リ處分セラレヘシ
 但シ本文ノ趣キ元戸長ヘ示達シ置カルヘシ
 第一 一旦使用ノ後寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニヨリ其事業又ハ費途ニ最モ近似ノ事業ニ充用シ若ハ寄附者ニ還付スルヲ得
 同上ノ金穀物件ニシテ未ダ使用スルニ至ラスニテ寄附者指定ノ事業又ハ廢絶シタル場合ニ於テハ之レヲ寄附者ニ還付スヘシ
 第二 元金又ハ原物ヲ委託シ其取得ヲ寄附シタルモノ若ハ元金又ハ原物ヲ据置トナシ其ノ取得ヲ使用スルノ方法ヲ以テ元金又ハ原物ヲ寄附シタルモノ其事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ

ハ其元金又ハ原物ハ之ヲ寄附者ニ還付シ其現存ノ收得又ハ之ヲ以テ支辨シタル物件ハ前項ニ依リ處分ス

第三 寄附ノ金穀物件ニシテ其處分方ニ付キ特別ノ約束ヲ付セルモノハ各其約束ニ依ル

訓令 第一百一號 明治二十三年六月二十七日 郡役所 市役所 町村役場

市制町村制第十二條ニ依リ調製スヘキ市町村歲入出決算表ハ明治二十二年三月内務省令第二號歲入出豫算表ト同一ノ様式ヲ用フヘシ

訓令 第一百六號 明治二十三年七月四日 郡役所 町村役場

地租制限超過ノ課税及特別税新設等ノ許可ヲ乞フハ其年度以前ニ在ルカ又ハ其年度内ニ於テ實際收支シ得ヘキ見込アル場合ニ在ルヘキハ勿論ニ候處年度經過後二十二年度分ノ稟請書差出候向有之新制度施行創始ノ際不得己儀ニ付其筋ニ於テモ特ニ許可相成候得共斯ク遲延候様ニテハ遂ニ決算ニ差支候而已ナラス畢竟會計整理上ニモ影響ヲ及ホシ候條將來ハ前年度若シハ其年度ノ始メニ於テ速ニ進達致スヘシ

訓令 第一號 明治二十四年一月九日 郡市役所 町村役場

市町村歲入出豫算表記載例左ノ通相定ノ候條明治二十四年度ヨリ該例ニ準據編成スヘシ

市町村歲入豫算記載例

科 目	前年度豫算額		本年度豫算額		附 記
	円位	厘位	円位	厘位	
第一款 財産ヨリ生 スル收入					
一 貸 地 料					某所字何々宅地(何々)段別何程或ハ坪數何程 貸地料一ヶ月金何圓宛

二 建物貸與料					某所字何々家屋何棟貸與料一ヶ月金何圓宛
三 藏 敷 料					某所土藏何棟一ヶ月金何圓宛
四 貸付金穀利子					共有金貸付元何程ハ年幾割何程ハ月何割貸付 米何程此利子何斗何升代金何圓
五 公 債 利 子					何種公債借書額何圓此一ヶ年分利子金何圓
六 小 作 米					某所字何々田(畑)小作米何石代一石金何程
七 共有地生産物拂 代					某所字何々桑園桑葉何千貫目拂代金何程何々 森林箱籠拂代金何程
第二款 使用料及手 數料					
一 議事堂使用料					一ヶ年間幾日一日ニ付金何拾錢
二 堤塘使用料					某所字何々堤塘幾坪一坪ニ付金何錢
三 道路並木敷使用 料					何街並木敷幾坪一坪ニ付金何程
四 何 使 用 料					町村制第八十四條及第八十九條ニ係ル使用料 等各別ニ列記スヘシ
五 督促手數料					何百何十回平均一回ニ付金何錢
六 何 手 數 料					町村制第八十九條ニヨリ徴収スル手數料ヲ各 別ニ列記スヘシ
第三款 雜 収 入					

一 橋錢及渡船賃					何川何橋々錢何圓何川何渡船賃何圓
二 竹木拂代					何川通何堤竹木拂代金何圓並木枯損木拂代金何圓
三 不用品拂代					何川通何堤竹木拂代金何圓並木枯損木拂代金何圓
四 小學校授業料					不用品具拂代金何圓反古拂代金何圓糞尿拂代金何圓
五 豫知スヘカラサル収入					生徒何十人平均一人何錢 過怠金科料金賠償金其他豫知スヘカラサル収入ヲ編入スヘシ
第四款 前年度繰越金					
第五款 地方稅補助金					
一 土木費補助					何川通何堤防修築費補助金何圓何々道路改修補助金何程
第六款 寄附金					
一 役場費寄附					町村長給料指定金何程備品費指定金何程
二 土木費寄附					何川通何堤防修築費指定金何程何道路改修費指定金何程
第七款 交附金					
一 國庫交附金					金穀徵收金何圓ノ百分ノ四
二 縣稅交附金					全上

第八款 市町村稅					
一 地價割					地價金何圓ニ付何錢但本年地租豫算高金何程地租壹圓ニ付金何程即チ地租ノ何分何厘ニ當ル
二 營業割					本年度縣稅營業ノ何分何厘
三 戶別割					本年度縣稅戶數割ノ何分何厘但シ戶數何戶一戸ニ付平均何程ニ當ル
四 段別割					本年段別豫算高何程一段步ニ付金何程
合計					

市町村歲出豫算表記載例

科 目	前年度豫算額	本年度豫算額	附 記
第一款 役所(役場)費	円位	円位	
第一項 給料			
一 市(町村)長給料			年俸何百圓(月俸何圓)
二 助役給料			年俸何百圓(月俸何圓)
三 収入役給料			年俸何百圓(月俸何圓)
四 書記給料			月俸何圓何人月俸何圓何人

五 雇員給料	常時雇月俸何圓何人日給何錢何人臨時雇何人平均日給何錢延何日分
六 使丁給料	月俸何圓何人日給何錢何人
第二項 雜給	
一 報酬	町村長報酬何圓助役報酬何圓常設委員報酬何圓區長報酬何圓
二 實費辨償額	助役辨償額何圓何々何圓
三 退隱料	市(町村)長退隱料何圓何々何圓
四 旅費	市(町村)長旅費日當何圓何々何圓
五 雇給	笨耕雇給何圓人足賃何圓
六 賞與	
第三項 需用費	
一 備品費	何器具新調費何圓何器修繕費何圓官報代何圓何書簿代何圓何々何圓
二 消耗品費	筆紙墨代何圓薪炭油代何圓議員選舉投票用紙代何圓何々何圓
三 賄費	宿直辨當料何圓夜勤辨當料何圓
四 通信費	郵便稅何圓電信料何圓

五 運搬費	物品運送費
六 印刷費	何々印刷費何圓
七 筆耕料	地價帳何万筆寫字料何圓何々寫字料何圓
八 雜費	役場借上料何圓議員選舉會場借上料何圓何々何圓
第四項 常時修繕費	
一 役所(役場)修費	床修繕費何圓疊替費何圓塀增修繕費何圓
二 物置修繕費	屋根修繕費何圓何々費何圓
三 揭示場修繕費	何々費何圓
第二款 會議費	
一 議員實費辨償額	議員何人一人ニ付何圓
二 書記給料	書記何人内一人ハ日給何錢何日分何人ハ日給何錢何日分
三 印刷費	議案印刷費何圓決議書全何圓何々何圓
四 備品費	何々新調費何圓何々修繕費何々
五 消耗品費	筆紙墨代何圓炭油代何圓何々何圓

二 貧民給與費		貧民何人給與米何石代一石何圓何々何圓
第七款 警備費		
一 雜給		消防夫手當何圓夜巡番人給何圓
二 雜費		蠟燭代何圓何々何圓
第八款 勸業費		
一 農談會費		農談會場借上費何圓何々何圓
二 共進會費		何々何圓
三 諸產業傳習費		發給傳習所費何圓水產傳習派遣生給與何圓何々何圓
四 農作物試作費		種苗代何圓試作地借上料何圓何々何圓
五 害虫驅除費		何々何圓
第九款 諸債擔稅		
一 諸稅		某所字何田(畑)地租何圓縣稅地租割何圓市(町)稅地價割何圓
二 一郡町村組合費		
三 某町村外何々町村組合費		

第十款 公債費		
一 土木公債		某所字某堤防公債償還年賦元並何百圓利子何圓
二 衛生公債		某所水道公債償還年賦元金何百圓利子何圓
第十一款 雜支出		
一 火災保險料		役場及某小學校舍何棟保險料
二 山番給料		某所字某山番人年給一人何圓宛
三 墓地火葬場費		某所墓地保存費何圓某所火葬場存保費何圓
四 土地買入費		某所字何田反別何程買入代何圓全畑反別何程買入代何圓
合計		

臨時費

第一款 建築費		
一 役所(役場)新築費		建築坪數何坪何合何圓周圍建柵費何圓
二 揭示場新築費		揭示場何々所新築費平均一ヶ月何圓宛
三 堤防築造費		某所堤防長何間高々何間馬踏何間新堤築造費

合	計				
通	計				

訓令第八號 明治二十四年一月二十三日 市役所 町村役場
 歳入出定額豫算表ヲ調製シ決算ヲ報告スルハ市參事會町村長収入役ノ本務ニシテ各市制町村制ニ規定セラレタル期限内ニ必ス之ヲ爲スヘキモノナルニ往々之ヲ遲滞スル向アリ甚タ不都合ニ候條將來篤ク注意シ豫算表ハ必ス年度前二个月ヲ限り之ヲ調製シ決算ハ年度後三个月以内ニ必ス之ヲ結了シ市町村會ノ認定ヲ經ルノ手續ヲ爲スヘシ

訓令第九號 明治二十四年一月二十三日 郡役所
 今般町村歳入出豫算表調製及決算報告ノ件ニ付町村役場ニ對シ第 號訓令候ニ付テハ篤ク得其意嚴重監督ノ上尙之ヲ遲滞スルモノアラハ其事實ヲ調査シ詳細具申スヘシ

二十三年十一月
 月號令第百五
 號ヲ本文并
 但書及書式
 中
 刪除

○第八類

○印紙

縣令第九十六號 明治二十二年十月四日
 印紙類賣捌人印紙類ノ下渡交換又ハ買戻ヲ請ハントストキハ別紙書式ニ依リ所在收稅部出張所
 へ願出ヘシ

(別紙)

印紙御買戻願

(△印ハ朱書)

種	目	定	價	枚	數	價	格	下	戻	代	金				
賣藥	印紙	壹	厘	千	枚	壹圓		九	拾	錢					
合	計	五	厘	千	五百	枚		七	圓	五	拾	錢			
煙草	印紙	六	錢	五	千	枚		八	圓	五	拾	錢			
合	計	八	錢	十	枚			三	百	圓					
通	計	七	千	五	百	十	枚		三	百	九	圓	三	拾	錢

右何々ニ付所有ノ印紙御買戻相成度候也

年 月 日

富山縣收稅部何出張所長宛

何市郡何町村

何 某印

印紙類(下渡願書)

種 目	定 價	枚 數	價 格	格 割	引 上	納 高
煙草印紙	貳厘	二千枚	四圓			
全	六厘	千五百枚	九圓			
全	壹錢	千枚	拾圓			
全	四錢	五百枚	貳拾圓			
合 計		五千枚	四拾三圓	三圓壹錢		三拾九圓九拾九錢
賣藥印紙	壹厘	千枚	壹圓			
全	貳厘	五百枚	壹圓			
全	壹錢	百枚	壹圓			
合 計		千六百枚	三圓	貳拾壹錢		貳圓七拾九錢
總 計		六千六百枚	四拾六圓	三圓貳拾貳錢		四拾貳圓七拾八錢

右御下渡相成度候也

年 月 日

富山縣收稅部何出張所長宛

何市郡何町村

何 某印

備 考

一登記印紙ノ下渡願書ニ限リ別紙ニ認ムルニ
損傷(汚染)印紙(交換願)

種 目	定 價	枚 數	價 格	定 價	枚 數	價 格
賣藥印紙	壹厘	千枚	壹圓	壹厘	五百枚	五拾錢
全	貳厘	五百枚	壹圓	壹錢	百十枚	壹圓拾錢
合 計		千五百枚	貳圓	壹錢	六百十枚	壹圓六拾錢
訴訟用印紙	三錢	百枚	三圓	拾錢	四十枚	四圓
全	五錢	四十枚	貳圓			
合 計		百四十枚	五圓			
通 計		千六百四十枚	七圓		六百五十枚	五圓六拾錢

右交換相成度候也

年月日

富山縣稅部何出張所長宛

何市何町何紙類賣捌人

何 某印

●縣令 第百一號 明治二十二年十月十八日

明治十九年九縣令第七號賣藥印紙交換出願心得書第一號書式中別紙ノ下「仕譯書」ヲ「請求書」ニ

「收稅長宛」（新川射水碼頭）「富山縣知事宛」ニ同書式ノ内新印紙仕譯書ヲ左ノ新印紙請求書ニ更正ス

(第一號書式ノ内)

新印紙請求書

種 類	既貼印紙枚數	全 金 額	割 引 高	新印紙枚數	全 金 額
何厘印紙	何方何千枚	何拾圓	何拾圓	何形印紙	何拾圓
何錢印紙	何千枚	何圓	何圓	何万何千枚	何拾圓
、 、 、	、 、 、	、 、 、	、 、 、	何全千枚	何圓
、 、 、	、 、 、	、 、 、	、 、 、	、 、 、	、 、 、
合 計	何万何千枚	何拾何圓	何拾何圓	何万何千枚	何拾何圓

右請求候也

年月日

何市何町何村何番地

賣藥營業人 何

某印

富山縣稅部何出張所長宛

●縣令 第三十二號 明治二十三年六月二十七日

明治十九年九縣令第七號賣藥印紙交換出願心得書中左ノ通加除更正ス

第九項中官廳ノ下割註「郡區役所戶長役場」ノ八字

第三號書式中宛名「郡區役所」四字及同括弧中「何縣何郡戶長役場」ノ十字

第一號書式ノ内新印紙請求書式中割引高ノ欄合計金高外ノ金額

右削除ス

第二號書式宛名「收稅部何出張所長」ト改ム

第十二項ノ次へ左ノ一項ヲ追加ス

第十三項 交換消印濟ノ藥品ハ検査官吏ノ點檢ヲ經ルコアラサレハ裝置ノ解放ヲ爲スヘカラス

●縣令 第六十四號 明治二十三年十二月二十七日

印紙類賣捌人ハ別紙離形ニ準據シ印紙類買入帳ヲ製シ所轄間稅分署ノ檢印ヲ受ケ印紙類買入ヲ爲

ス毎ニ式ノ如ク記入シ之ヲ携帶シ元賣捌人ハ支店又ハ代理店主ハ賣渡ノ證トシテ之ニ認印スヘシ但廢

業ノ節ハ標札ト共ニ該帳簿ヲ所在間稅分署ニ差出シ署印ノ削除ヲ受クヘシ

印紙賣捌人ハ賣藥營業者ニ賣藥印紙ヲ賣渡ストキハ其携帶スル買入帳（所轄間稅分署ノ）ニ年月日種

類枚數ヲ記載シ署名捺印スヘシ

(別紙)

(本簿ニハ相當印紙ヲ貼用スヘシ)

(表紙厚紙)

二十四年二月
縣令第十三號
ヲ以テ追加ス

明治何年度 (此帳簿ハ毎年度ニ調製スヘシ)

關稅分 署ノ印

印紙類買入帳

富山縣何郡(市)何町大字何村何番地
何印紙買入人 何 某

(用紙通常系統紙)

印紙類買入帳

印紙類買入年月日	元買入人認印	印紙種類別	枚
何年何月何日	○	證券何程印紙	何枚
全	上	煙草何程印紙	何枚

以下買入印紙種類及價額面異ナル毎ニ列記スヘシ

●縣令第六十五號 明治二十二年十二月二十七日
明治十九年九月縣令第七號賣藥印紙交換出願心得書中第二項第十項左ノ通更正ス

第二項 印紙交換願ハ第一號書式ニ倣ヒ所轄關稅分署ニ差出シ賣藥及既貼印紙ノ點檢ヲ受ケ富山關稅分署所轄内ハ關稅署ニ其他ハ所轄關稅分署ニ交換印紙ノ下渡ヲ請フヘシ

第十項 前項ニ依リ証明ヲ受ケタル者ハ該証明書ヲ添ヘ富山關稅分署所轄内ハ關稅署ニ其他ハ所

轉關稅分署ニ交換印紙ノ下渡ヲ請フヘシ

●縣令第十二號 明治二十四年二月二十七日
明治十九年七月縣令第一號賣藥印紙買入規則相廢シ同二十二年一月縣令第九號賣藥印紙稅規則心得中左ノ通第四條ヲ更正シ第五條第六條ヲ追加シ元第五條以下順次繰下ク第九號樣式ノ次ニ第十號樣式ヲ加フ

但賣藥印紙買入鑑札ハ明治二十四年三月二十日限り所轄關稅分署ニ還納スヘシ

第四條 賣藥原品買入ノ際ハ賣渡人ヨリ仕切書又ハ通帳ヲ取リ置クヘシ

第五條 賣藥印紙ノ買入ハ第十號式ノ帳簿ヲ製シ所轄關稅分署ノ檢印ヲ請ヒ買入ノ都度携帶シ式ノ如ク賣入人ヨリ記載押印ヲ受クヘシ

第六條 賣藥印紙買入帳ノ檢印ハ代替改名又ハ轉居等ノ異動アルトキハ再印ヲ受クヘシ但廢業又ハ禁止若シハ所轄關稅分署外ニ轉居ノ時ハ檢印ノ刪除ヲ受クヘシ

第十號 (本簿ニハ相當印紙ヲ貼用スヘシ)

(表紙厚紙)

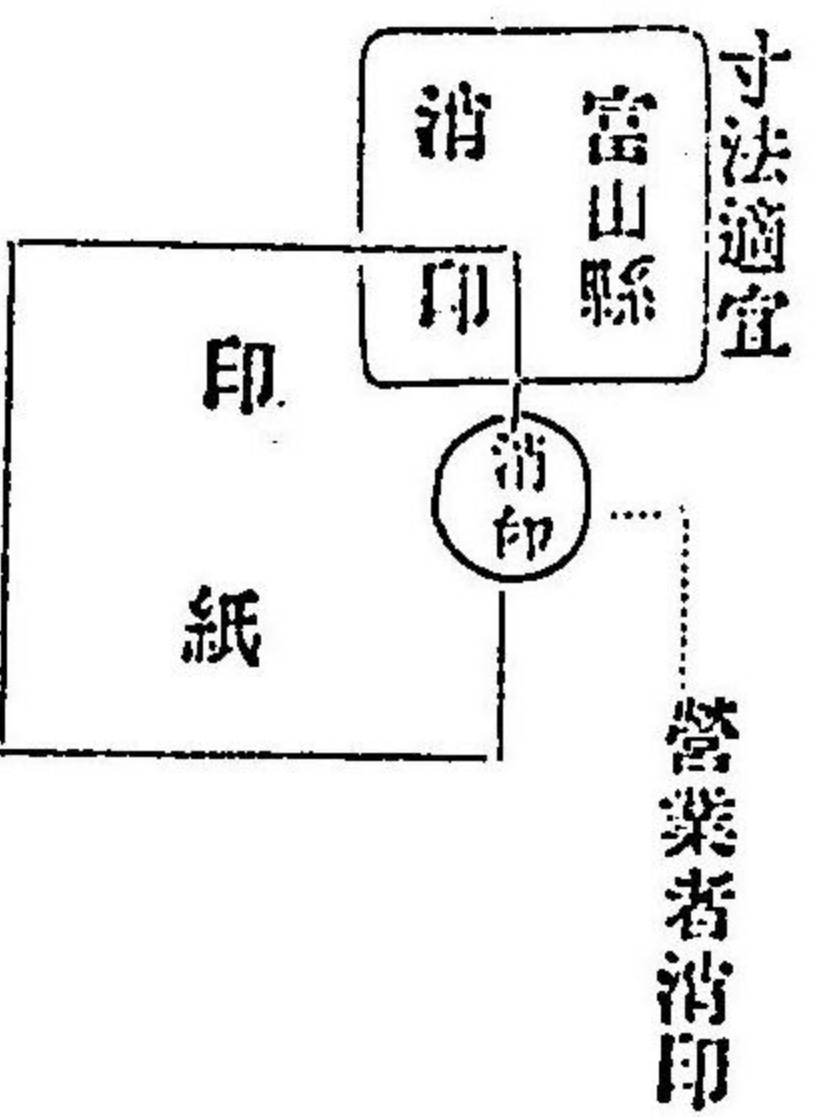
年 號 月

關稅分 署ノ印

賣藥印紙買入帳

富山縣何郡何町大字何村何番地
賣藥營業人 何 某

第六項 既貼印紙ノ消印ハ左記ノ消印ヲ爲スト雖トモ容器ニ依リ消印シ難キモノハ印紙ノ中心ヨリ切斷スヘシ



第七項 第五項第六項ノ捺印ヲ了シタルトキハ所長ニ於テ該印章ノ有無當否ヲ點檢シ及ヒ藥品員數ノ再檢ヲ爲スヘシ

但所長事故アルトキハ主任者外ノモノヲシテ代理セシムルコトヲ得

第八項 前各項ノ調査ヲ了シ不都合ナキヲ認メタル上ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

間稅署富山分署所轄内ノ分ハ分署長ニ於テ廢棄ニ係ル印紙ノ種類員數ヲ間稅署長ニ報告シ新印紙ハ直ニ間稅署ニ請求スヘキ旨ヲ指示スヘシ

魚津、高岡、出町ノ各間稅分署長ハ新印紙請求書ノ右端ニ認印シ之ヲ間稅署ニ送付スヘシ

第九項 賣藥印紙ノ交換ハ當日限リ處理スヘシ
但巨多ノ出願アリテ當日内整理シ能ハサル場合ニ於テハ所長ノ裁可ヲ經テ翌日ヨリ三日以内ノ日限ヲ豫定シ出願者ニ示シ置クヘシ

第十項 交換印紙ノ接授並ニ藥品ノ員數點檢等ノ場合ニ於テハ必ス出願者ヲ立會ハシムヘシ

二十四年二月
訓令第二十
號ヲ以テ本
項改正

第十一項 賣藥印紙并ニ藥品下戻シ濟ノ上ハ直チニ第一號書式ニ倣ヒ所在租稅検査員派出所へ報告スヘシ

(第一號書式)

記

一何々丸	何	個	國郡町村番地	何	ノ	某
一何々丹	何	個	賣藥營業人	何	ノ	某
一何々圓	何	個				

計

(二人以上アルトキハ順次列記スヘシ)

右ハ賣藥印紙交換願出ニ依リ既貼印紙消印ノ上藥品下戻候條不取締無之様御注意相成度此段及通報候也

年 月 日 收稅部何出張所長 何 ノ 某 印

租稅検査員何派出所主幹

何 ノ 某 殿

訓令第四百四十三號 明治二十三年十一月七日

間稅分署

印紙類出納規程及證明程式ニ依リ其指揮等ヲ請ハントストキハ自今左ノ書式ニ據リ取扱フ可シ

何分署印紙類會計監督主任(印紙亡失事實御認定ノ儀上申)

一何、何程印紙

何枚

數種アルトキハ列記スヘシ

右何々〔亡失候損ニ係ル〕御指令相成度此段相伺候也(御認定相成度此段上申候也)

年月日

印紙類會計官吏 氏

名印

知事宛

備考

一認定ノ上ハ該書面下付スルヲ以テ毀損ニ係ル印紙ハ知事宛ヲ以テ送付スルモノトス

一送付書ニハ何、何程毀損印紙何枚ト種類毎ニ列記スルヲ要ス

一毀損印紙ヲ送付スルトキハ之ヲ封物トナシ何々毀損印紙何枚ト表書シ印紙類會計官吏署名捺印スヘシ

訓令第四百四十四號 明治二十三年十一月七日

間稅分署

印紙類出納計算書ハ自今正副差出スヘシ

訓令第六十三號 明治二十三年十二月二十六日

間稅分署

明治二十三年十一月十一日 大藏省令第三十四號印紙類賣下賣捌規則施行細則第一條第二項ニ依リ印紙類賣捌人員左之通り相定ム

富山縣間稅署富山分署所轄内

五十二人

同 魚津分署同

十七人

同 高岡分署同

二十五人

同 出町分署同

二十七人

訓令第三十號 明治二十四年二月二十七日

間稅分署

明治十九年七月乙第百三號廢止ス

○煙草

縣令第五十二號 明治二十三年十月三十一日

明治二十二年一月縣令第十二號煙草稅則心得中左ノ一條ヲ追加ス

但第五條ヲ第四條トシ第六條以下第八條マテ順次繰上ク

第八條 稅則第三條一項ニ據リ證約狀差出ノ後改徵ヲ要スル場合ハ其改呈前ニ係ル證約又ハ保證ノ義務ニ就テモ責任ヲ負擔スヘキ旨ヲ改呈證書ニ補足スヘシ

○酒類

縣令第九十二號 明治二十二年九月十三日

明治十九年九月縣令第六號自家用料酒類製造手續中左ノ追加除更正ス

第二條中十月一日迄ニ下「町村役場ヲ經由シ所在稅部出張所又ハ便宜ニ依リ直チニ所在稅部出張所へ差出シ鑑札へ免許ノ證印ヲ受クヘシ」ト更正ス

第一條第五條中「所轄郡役所へ」ノ六字及ヒ第四條中「所在郡役所及租稅檢査員派出所へ」ノ十五字ヲ削リ各「町村役場ヲ經由シ所在稅部出張所又ハ直チニ所在稅部出張所へ」ト更正シ尙第五條へ左ノ但書ヲ追加ス

但書換ニ限リ口頭ヲ以テ届出ルコトヲ得

第一號第二號書式別紙ノ通改正ス

第三號第四號第五號書式ノ戸長連署例ヲ廢シ宛名ヲ富山縣知事宛ト更ム

(別紙)

(第一號書式)

自家用料酒製造御届

一何酒何程製造

但明治何年度一期ノ見込

右製造仕度候ニ付鑑札御下渡相成度尤酒造稅則附則第四條ノ各項ニハ勿論抵觸不致候此段御届申候也

年 月 日

富山縣知事宛

富山縣何郡(市)何村 大字何町何番地

何 誰 印

(第二號書式) (八寸系紙)

自家用料酒何年度引續製造御届

免許鑑札番號	一期製造見込種目石高	住 所	氏 名
第 何 號	濁酒何程	何郡何村大字何々村番地	何 誰 印
、	何々、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、

右下名ノ者共酒造稅則附則第四條ノ各項ニ抵觸不致候尚引續御免許被成下度鑑札相添此段御届申候也

年 月 日

富山縣知事宛

備考

本書式ハ一市一町村中若クハ大字限製造者又ハ其内數人届出ノ便宜ヲ計リタルモノナルヲ以テ可成連署届出ヲ要スト雖モ事宜ニ依リ本書式ニ準シ各自ニ届出ツルモ妨ケナシ

縣令第四十三號 明治二十三年九月十二日

明治十七年九月甲第百三號酒造營業人心得別冊ノ通り改正シ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

(別冊)

酒造營業人心得

第一項 酒造稅則施行細則第一條ニヨリ製造免許願書ニ添付スル圖面ハ第一號式ニヨルヘシ

第二項 製造免許ヲ受ケントスルモノハ所有不動産〔賃入書入〕ノ價額造石稅四分ノ一以上ニ相當スル丈ケテ第二號式ニヨリ取調ヘ差出スヘシ

第三項 稅則第一條二項ノ保證人ハ第三號式ニ保證物ハ第四號式ノ保證書ヲ作り施行細則第一條ニ項ニヨリ第五號式ノ願書ヲ添ヘ營業出願ノ際差出スヘシ

稅則第一條二項ニヨリ保證物トシテ差出シタル不動産ニハ登記法第二十一條ニヨリ登記ヲ受クヘシ

第四項 稅則第一條二項ノ保證物トシテ差出シタル不動産ニシテ天災等ニ罹リ亡失又ハ價格ヲ減シタルトキハ更ニ之レニ相當スル保證物ヲ差出スヘシ

但保證人失踪逃亡又ハ施行細則第七條ノ資格ヲ失ヒ若クハ不相當ト見認ムルトキハ更ニ保證人ヲ定ムヘシ

- 但轉居又ハ代替リ改姓名ハ其時々届出ツヘシ
- 第五項 稅則第二十六條届書中造リ方法ハ第六號式ニヨリ同第二十七條建物諸器械ノ届書コハ自他ノ所有ヲ區分スヘシ
- 第六項 稅則第二十條諸器械ノ賣買讓與ニシテ買受讓受人非營業者若ハ他管下ノモノナルトキ烙印アルモノハ其消却ヲ受ケタル後送出スヘシ
- 第七項 醗ハ熟成期日ヲ豫定シ燒酎元粕味淋ノ原料等ハ使用前何レモ申出檢査ヲ受クヘシ
- 第八項 稅則第二十一條但書ノ不用酒醗ヲ同業者中へ賣買スルトキハ賣主買主ヨリ届出ヘシ
- 第九項 施行細則第二十二條ノ帳簿記入方ハ第七號式乃至第十三號式ヨリ使用又ハ収支ノ際無漏記入スヘシ
- 但酒類賣上帳ハ適宜調製明細ニ記載スヘシ
- 第十項 清酒ハ檢査既未済ノ區分及ヒ仕込順號醗ハ留掛ノ月日及ヒ仕込順號酒醗ハ醗立ノ月日及ヒ順號ヲ紙札又ハ白墨ヲ以テ桶側面ニ貼付又ハ記載シ置クヘシ
- 第十一項 酒造稅則并同施行細則及本心得ノ願届書等ハ左ノ區別ニヨリ差出スヘシ
 - 一 稅則第一條第七條
 - 一 施行細則第一條中一項三項四項同則第二條第三條第十一條
 - 一 營業人心得第二項第三項第四項
- 右所轄収稅部出張所へ
 - 一 稅則第十條第十四條第十五條但書第十六條第二十條第二十五條第二十六條第二十七條
 - 一 施行細則第十六條第十八條第十九條
 - 一 營業人心得第七項第八項

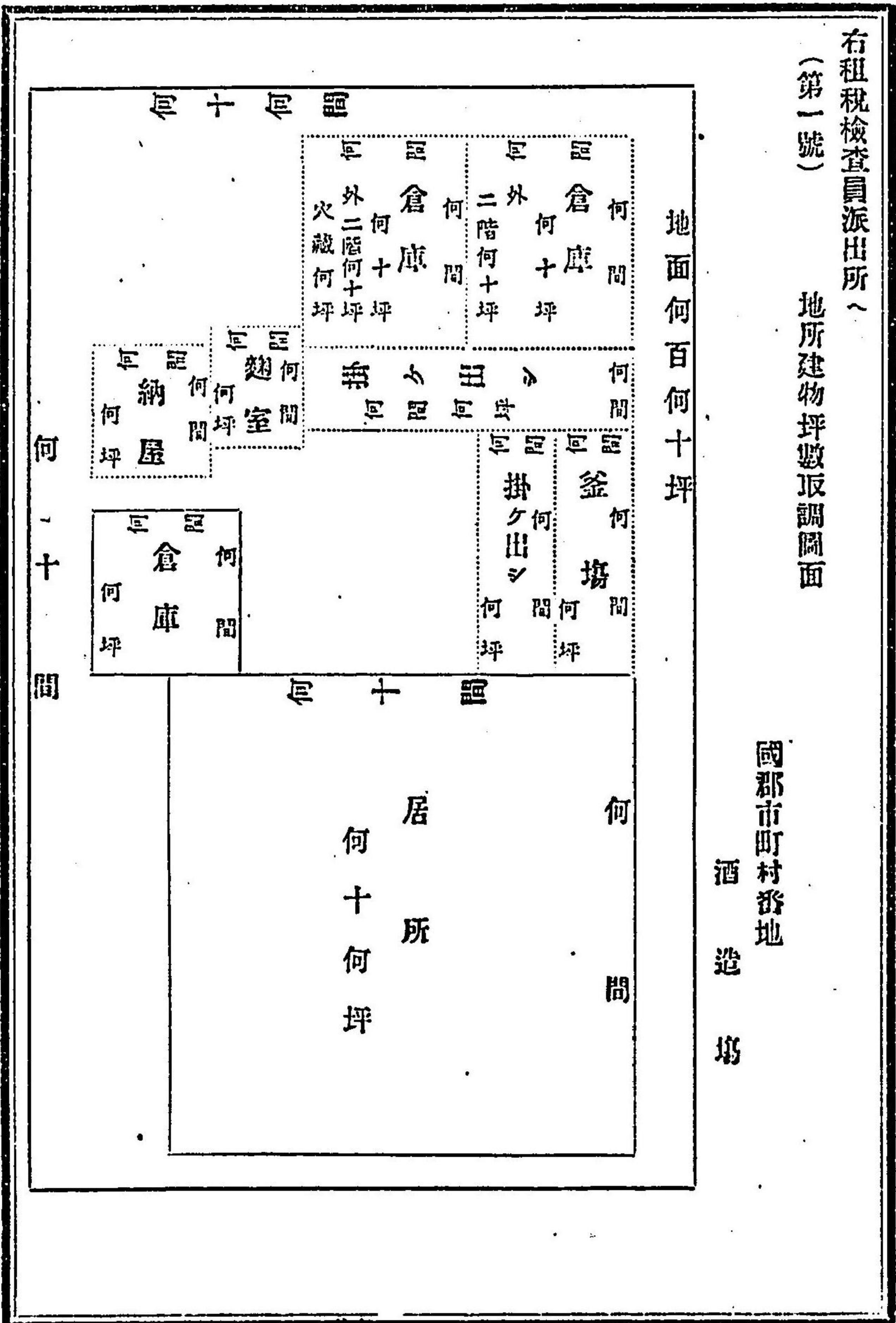
右租稅檢査員派出所へ

(第一號)

地所建物坪數取調圖面

國郡市町村發地

酒造場



右之通りニ候也

國郡市町村番地

何

某印

年 月 日
富山縣知事何某殿
備考

一酒造ニ用ユル建物等ハ朱線ヲ以テ其分界ヲ明瞭ナラシムヘシ
一二階穴藏ノ類ハ張掛ケ又ハ外書ニ記載スヘシ
(第二號)

所有不動産調査

種目	坪反	別	棟	地	租	現	買	價	所	在	地	番	號
田	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段
畑	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段
宅地	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段
何々	何十歩	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓	何拾圓
家屋	何十何坪	幾	棟	何	圓	何	拾	圓	何	拾	圓	何	拾
倉庫	何十何坪	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何々	何十何坪	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

計	何々		何々		何々	
	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段	何町何段
何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪
何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪
何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪	何十何坪

右私所有ノ不動産前記ノ通り相違無之候也

國郡市町村番地

某印

年 月 日
富山縣知事何某殿
備考

一土地ニシテ大字ヲ異ニスルモノハ大字限リ區分シ記載スヘシ
(第二號)

納税保證書

國郡市町村番地

何

某

一何酒何百何十石
(但何酒何百何十何石前見込石高) [増石ニ付テテノ保證書ニ
右ノ者今般(酒造營業出願御許可相成候上ハ前記見込石高ニヨリ製造シタル)(造酒見込増石届出
候ニ就テハ前記増石ニ對スル)造石税金若シ本人コ於テ毎納期日内ニ上納セサルトキハ本人ニ成
換リ私ヨリ直チニ辨納可仕依テ其確實ヲ證スル爲メ保證如件
國郡市町村番地

年 月 日	富山縣知事何某殿	保 証 人	何 某 印
(第四號)			
一 何酒何百何十何石	此造石税ニ對スル保證物件左ノ如シ	明治何年度 釀造見込(増石)高	
一 何々公債證書	何々號	何番	何枚
一 何々銀行株券	何々號	何番	何枚
一 何々會社株券(債券)	何々號	何番	何枚
計金何百何拾圓			
一 市街 一 市街 一 市街	此額面金何拾圓	何市何町何大字何村何番地	
一 田(畑)何段何畝何十何步	此土地臺帳記入地價何拾何圓何拾何錢	何市何町何大字何村何番地	
一 建物(家屋)	幾棟	建坪何十坪	何市何町何大字何村何番地

此現賣買價格何百何拾圓

右酒造稅則第一條二項ノ明文ニヨリ保證物トシテ前記ノ通差出候若シ本年度造酒石高ニ對スル造石税金毎納期限內ニ於テ完納セサルトキハ管廳ニ於テ直ニ公賣或ハ便宜ノ方法ヲ以テ賣却セラルルモ聊カ異議ナキハ勿論賣却セラレタル代價納稅額ニ滿タサルトキハ御達ニ從ヒ其不足額ハ直ニ上納可致依テ確實ヲ證スルヲ記名調印致候也

年 月 日

富山縣知事何某殿

國郡市町村番地

何 某 印

(第五號)

保證物件(保證人)御認可願

明治何年度酒造營業出願候ニ付テハ別紙保證書ノ通り(保證物件不動産外ノモノハ現品相添差出候間)保證人何名相立候間(御認可相成度此段相願候也)

年 月 日

富山縣知事何某殿

國郡市町村番地

何 某 印

備考

一 増石ニ際シ差出ス認可願書モ本文ニ準スヘシ

(第六號)

酒類釀造方法書

國郡市町村番地

計 仕込水

以下倣之

備考
 一製造方法ヲ同フスルモノハ一々石數ヲ記スルニ及ハス單ニ仕込月日ノミヲ記載スルモ妨ケナシ
 一ヶ月毎ニ月計ヲ付シ二ヶ月以上ヨリハ通計ヲ付スヘシ
 (第九號)

粕目方帳
 搾リ上ケ之部

計	仕込	月	第	第	第	第	順
	一	計	三	五	三	一	一
	號	マ	號	號	號	號	號
	達	テ	マ	ヨ	ヨ	リ	リ
	量	リ	リ	リ	リ	リ	リ
何	何	何	何	何	何	何	何
十	十	十	十	十	十	十	十
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
何	何	何	何	何	何	何	何
百	百	百	百	百	百	百	百
何	何	何	何	何	何	何	何
十	十	十	十	十	十	十	十
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁

以下倣之

酒粕拂之部

賣却月日 粕量 買主住所 買主氏名

何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字	字
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾
幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾
釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數

以下倣之

備考

一ヶ月毎ニ月計ヲ付シ二ヶ月以上ヨリハ通計ヲ付スヘシ
 一店買ニハ買主ノ住所氏名ハ記スルニ及ハス
 (第十號)

蒸溜帳

順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順	順
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石	石
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程	程
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗	斗
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫	貫
匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾
幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾	幾
釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜	釜
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數

買入日	酒類	石	高	金	高	區	營業	賣捌人住所氏名
何月何日	清酒	何十石	何百圓	何拾圓	營業	何町	何町	某
何月何日	味淋	何石	何拾圓	何圓	全	何町	何町	某
何月何日	燒酎	何斗	何圓	何圓	請賣	何町	何町	某

以下倣之

○第九類

○會計

●告示第四十六號 明治二十三年四月十一日

富山本金庫所在外居住者ニ係ル賞勳年金及軍人恩給ハ直ニ本人ニ交附スヘキニ依リ左ノ期限ニ其所有セル年金票又ハ恩給登錄寫帳ノ披閱ヲ所轄市町村長ニ請求スヘシ

但恩給登錄寫帳ノ披閱ハ本年四月ニ限り此際請求スヘシ

一恩給登錄寫帳

一年 金 票

毎年七月四日ノ三日
全 六月 十月 十二月 三日

●告示第四十七號

明治二十三年四月十一日

富山本金庫所在外居住者ニ係ル窮民救助米代及棄兒養育米代ハ自今富山本金庫ヲシテ直ニ本人ニ送金セシム

送金セシム

收稅部出張所

●訓令第二百四十二號

明治二十二年十一月八日

收稅部出張所

内國稅徵收所屬運搬物品授受手續左ノ通相定ム

一物品ヲ運搬セントスルトキハ其員數ヲ通運會社員若クハ運搬人立會ノ上點檢荷造ヲナシ相渡シ其領收證書ヲ徴スヘシ

一物品ヲ受取ルトキハ其荷造ヲ解剖スルト同時ニ通運會社員若クハ運搬人立會ノ上其員數ヲ點檢シ若シ員數等ニ相違アルトキハ立會者ト連署直ニ申出ヘシ此場合ニハ荷造ニ施セル封緘ヲ添送スヘシ

一前項ノ點檢後員數ニ相違アルコトヲ發見スルモ供給者其責ニ任セス受給者ニ於テ物品出納順序ニ定ムル亡失物品ノ例ニ依リ之ヲ辨償スルモノトス

訓令 第二號 明治二十三年一月四日

警察署 警察分署

警察ノ取扱ニ係ル沒收品及違警罪科料沒收金ノ類ニシテ歲入ニ屬スルモノ取扱手續及公賣物品入札規則左ノ通相定ム

但明治二十年七月達第六百十三號廢止條條自今分署ニ於テ沒收シタル物品ハ所轄警察署ニ取纏メ處分スヘシ

沒收物件取扱手續

- 第一條 沒收物件ハ一个月分取纏メ物件所在ノ警察署ニ於テ翌月内ニ此手續ニ由リ公賣ニ付スヘシ
- 第二條 物件公賣ノ方法ハ公賣物件入札規則ニ准據シ競争入札ニ付スヘシ
- 第三條 公賣物件ハ入札期日ヨリ少クモ十五日已前ニ揭示又ハ其他ノ方法ニ由リ廣ク公告スヘシ
- 第四條 前條揭示又ハ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
 - 一 競争入札ニ付スル物件
 - 二 契約書按テ示ス場所及ヒ其契約ノ取結ヒテ擔當スル官吏ノ官氏名
 - 三 競争執行ノ場所日限及時刻
 - 四 入札ノ保證金
- 第五條 入札保證金ハ其物件ノ見積代金百分ノ五トス
- 第六條 競争入札ニ付シタル物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ
- 第七條 入札中一モ前項ニ豫定シタル價格ノ制限ニ違ヒサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再入札ヲ爲

サシムルコトヲ得

第八條 入札物件落札ノ上ハ三日已内ニ金額及ヒ拂下人等詳細届出スヘシ

但代金(保證金)除クハ納額告知書ヲ發シ納入シムルコト付國庫金出納所若クハ支所ノ領收證書ヲ檢閲ノ上現品ヲ下渡スヘシ

第九條 度量衡及銃砲彈藥類ハ各取締規則ニ由リ公賣スヘシ

第十條 印章類ハ印面ヲ削除シ鍵類ハ其現形ヲ變シテ公賣ニ付スヘシ

第十一條 物件中賣却シ能ハサル成規アル者或ハ輕微ニシテ價值ナキト認ムルカ又ハ腐敗等ニ係ルモノハ燒却スヘシ

第十二條 物件中公賣ニ付スルモ其價格僅少ニシテ得失相償ハサルモノト認ムルトキハ其事實ヲ具シ處分方ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條 公賣物件入札期限内ニ望人ナキカ又ハ拂下ヲ停止シタルトキハ更ニ再入札ニ付シ尙望人ナキ場合ニハ品目員數ヲ詳記シ處分方ノ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 物件ヲ拂下タルトキ及第十一條第十二條第十三條ノ物件處分セントキハ一箇月毎ニ第一號書式ニヨリ翌月五日限物品會計官吏ニ報告スヘシ

但拂下ニ係ルモノハ物品領收證書ヲ添付スヘシ

第十五條 富山警察署及婦負警察署取扱ニ係ル沒收物品ハ此手續ニ依ラス每一箇月分取纏メ其品目員數并沒收セシ年月日及理由ヲ詳記セシ仕譯書ヲ現品ニ添付シ翌月五日迄ニ物品會計官吏ニ引繼クヘシ

但第十一條ニ依リ燒却スヘキ物品ハ此限ニアラス

第十六條 沒收物品ハ沒收品出納簿ヲ設ケ置キ受拂ノ都度品目員數沒收ノ事由拂下又ハ處分ノ事

由年月日ヲ洩レナク記載シ常ニ現品ヲ明瞭ナラシムヘシ
 第十七條 料没収金ノ類ハ警察署ヘ一箇月分取纏メ金額事由及處分ノ年月日ヲ詳記セシ仕譯書
 ナ添付シ正當納入ノ納證書ト共ニ翌月十日限リ送納スヘシ
 第十八條 漂着物公賣代金ハ現金ヲ徴収シ其拾揚主ヘ下付ノ分ハ本人ノ領収證書ヲ徴シ官ニ收入
 スヘキ金額ハ現金ニ第二號書式ノ納證書ヲ相添ヘ送納スヘシ
 但三箇年己内ニ其持主判明セントキハ官ニ收メタル分ハ更ニ請求スヘシ
 第十九條 没収シタル保證金ハ其違約ノ事由及没収セシ月日等ヲ詳記セシ納書ニ現金ヲ添ヘ其都
 度送納スヘシ
 第二十條 第十七條第十八條第十九條ニ規定シタル送納書ハ警察本部ヲ經由スヘシ

(第一號書式)
 何月中官没品處分濟報告

品目	員數	没收事由	没收ノ年月日	拂下契約月日	拂下又ハ處分月日	拂下代價處分ノ事由	拂下人住所姓名
何品	何個	何々	何年何月何日	何月何日	何月何日	金何程	何町村 姓名
何品	何個	何々	何年何月何日	何月何日	何月何日	金何程	何町村 姓名
何品	何個	何々	何年何月何日	何月何日	何月何日	金何程	何町村 姓名
何品	何個	何々	何年何月何日	何月何日	何月何日	何々ニ付燒却セシ分	何々ニ付何々ニ付何々

右報告候也	何警察署長	官 姓 名 印
物品會計官吏宛 (第二號書式) 證	没入金	拾揚主ヘ下付ノ分別紙領收證ノ通
高金何程	外	金何程
一金何程	外	拾揚主ヘ下付ノ分別紙領收證ノ通
右上納候也	何警察署長	官 姓 名 印
年 月 日	知 事 宛	公賣物品入札規則
年 月 日	知 事 宛	公賣物品ノ入札ヲ爲サントスル者ハ此規則ノ趣意ヲ了解シ而シテ現品熟覽ノ上第一號書式ニ依 リ入札スヘシ 一入札ニ加ラントスル者ハ入札保證金ヲ差出スヘシ若シ落札者契約ヲ結ハサルトキハ該保證金ヲ 没収ス

一入札ハ左雛形ニ由リ一番號毎ニ封書トシ其番號及保證金高等ヲ記載スヘシ

第何號物品 入札
保證金何程ヲ添

印	町村番地	印
	姓	
	名	

- 一入札價格不相當ト認ムルカ或ハ落札者契約ヲ結ハサルトキハ再入札ニ付スヘシ
- 但落札者違約ノ場合ニハ二番札已下ニ落札ヲ命スルコトアルヘシ
- 一開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行ヒ一廉毎ノ金額最高價ヲ以落札トス若シ價格同一ナルモノハ抽ヲ以落札人ヲ定ム
- 一開札ノ後ハ違算書損等ノ故障申立ルモ一切採用セズ強テ故障申立ルモノハ違約トシテ保證金ヲ沒収シ拂下ヲ停止スヘシ
- 一落札ヲ命シタルトキハ即時ニ第二號書式ノ契約書ニ保證金トシテ代價百分ノ十ヲ入札保證金ニ差繼キ差出スヘシ尤保證金ニ對シテハ領收證書ヲ交付スヘシ
- 一落札人ハ代金納額告知書ヲ交付セシメ付シテ之ニ現金ヲ添ヘ口數五日己内ニ國庫金出納所又ハ支所ニ相納メ該所ノ領收證書ヲ得テ第三號書式ノ物品領收證書ト共ニ差出シ現品ヲ受取ルヘシ
- 但五日ヲ過キ納金ノ手續ヲナサハルトキハ拂下ヲ停止ノ上保證金ヲ沒収ス
- 一代金納額ノ上ハ先キニ交付セシ領收證書ト引換ヘ保證金ヲ還付スヘシ

(第一號書式)

入札

(番號毎ニ入札スヘシ)

第何號

一何品

何點

一何々 計何點 此入札金何程

右代價ヲ以御拂下相成度落札ノ上ハ御規則ヲ相守リ聊違背不仕依テ保證金何程相添入札仕候也

年 月 日

住 所

姓 名 印

警察署長宛

(第二號書式)

契約書

一第何號

何十點

此入札金何程

一第何號

何點

此入札金何程

右金額ヲ以私ニ御拂下相成奉畏候依テ左ノ通契約仕候也

一保證金トシテ何程相納候

一代金ハ 月 日迄ニ可相納若シ違約候節ハ保證金沒収等ノ御處分相成候トモ聊異儀不申立候

年 月 日

住 所

姓 名 印

警察署長宛

(第三號書式)

物品受取證

一何々品
一何品

何點
何十點

右御拂下ニ付正ニ受取候也

住 所

姓 名 印

年 月 日

郡 役 所 市 役 所

警察署長宛

◎副令第二十四號 明治二十三年二月二十一日

徵兵檢査用物品取扱規程別冊ノ通り相定ム

但別冊ハ別ニ頒付ス

(別冊)
(表紙雛形)

徵兵檢査用物品取扱規程

徵兵檢査用物品取扱規程

第一條 徵兵檢査用トシテ郡市役所ニ保管ノ物品ハ取扱主任ニ名ヲ定メ取扱ハシメ郡市長之レカ

監督ヲナスモノトス

第二條 徵兵用ニ使用スル物品ハ左ノ種類トス

備 品

第三條 郡市役所ニ保管ノ物品ハ取扱主任ニ於テ使用證書ヲ調製物品會計官吏ニ差出スヘシ
但使用證書式ハ第一號ニヨルヘシ

第四條 物品取扱者更迭ノ場合ニハ更ニ取扱主任ヲ定メ前取扱者ト連署ヲ以テ保管物品授受濟ノ
旨ヲ物品會計官吏ニ報告スヘシ

- | | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------|---|---|---|
| 卓 身 手 藥 視 肉 茶 屏 印 卓 寐 奉 雜 蠟 西 灰 | 尺 桶 罐 箱 池 碗 風 章 掛 臺 紙 燭 洋 紙 | 手 洗 桶 五 德 硯 石 入 糊 盆 幕 版 椅 大 柄 火 薪 美 濃 系 紙 類 郵 便 切 手 筆 | 水 滴 狀 入 指 石 入 盆 煙 草 枕 函 書 鉢 火 釜 湯 能 十 小 刀 土 瓶 茶 袋 狀 八 寸 紙 炭 | 掛 箱 札 印 掛 肉 朱 八 寸 系 紙 類 和 瀧 紙 墨 油 附 木 帶 美 濃 紙 石 表 紙 八 寸 表 紙 麥 麸 生 |
|---------------------------------|-----------------------------|---|---|---|

第五條 使用ノ物品亡失毀損セシトキハ本人ヨリ其品目員數及亡失毀損ニ係ル事實ヲ證明シ知事ノ認可ヲ受クヘシ尤此證明書ヲ差出ス場合ニハ郡市長ニ於テ事實ヲ取糺シ辨償セシムヘキ乎否ヲ調査シ其見込書ヲ副申スヘシ
但證明書式ハ第二號ニ依ルヘシ

第六條 故意若シハ怠惰ニ依リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ之ニ對スル相當代價ヲ辨償セシムヘシ

第七條 毀損ノ物品ニシテ修補ヲ加ヘ尙需用ニ耐ユル見込アルモノハ品目員數及修補費ヲ概定シ知事ノ許可ヲ得テ修繕ヲ爲シ其旨報告スヘシ
但報告書式ハ第三號ニ依ルヘシ

第八條 不用又ハ毀損ニシテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ取扱主任ニ於テ第四號書式ニ依リ一旦還納書ヲ差出シ而シテ現品ハ郡市長ニ於テ調査シ公賣價値ナキト認ムルモノハ燒却ノ方法ヲ取調處分方ノ指揮ヲ受クヘシ
但公賣及燒(棄)却處分濟ノ上ハ第五號書式ニ依リ翌月五日迄ニ報告スヘシ

第九條 購入スヘキ物品ハ郡長又ハ市長ニ於テ取調豫メ品目員數及代價ヲ概定シ必要ノ事由ヲ具シ前以テ知事ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切購入ヲ許サス

第十條 前條購入セシ物品ハ一箇月分取纏メ翌月五日限り物品會計官吏ニ報告スヘシ
但報告書式ハ第六號第七號ニ依ルヘシ

第十一條 購入ニ係ル物品ハ取扱主任ニ於テ備品ニアツテハ使用證書消耗品ニアツテハ領収證書ヲ調製翌月五日限り差出スヘシ
但領収證書式ハ第八號ニ依ルヘシ

第十二條 消耗品ハ取扱主任ニ於テ領収シ支消高精算ハ毎年檢査終了後十日以内ニ精算書ヲ差出スヘシ尤殘品アルトキハ翌年度ニ繰越使用スヘシ
但精算書式ハ第九號ニ依ルヘシ

第十三條 前條精算書ニハ各自ニ交付セシ品目員數及使用者ノ領収印アル書類ヲ添付スヘシ

第十五條 前各條ニヨリ取扱主任ヨリ直ニ差出スヘキ文書ハ渾テ郡市長ニ於テ調査シ正當ト認ケルトキハ該書ニ捺印スヘシ

第十六條 物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クヘシ
備品出納簿
消耗品出納簿

第十七條 前條帳簿ヘハ品目毎ニ區分シ員數并購入支拂ノ年月日ヲ記入シ常ニ現品ヲ明瞭ナラシムヘシ

(第一號) 使用證書
一何々 何程
一、、

計 何品
右徵兵檢査用物品共用トシテ受取使用中正ニ保管致候也

年 月 日
何郡市役所取扱主任
官 姓 名 印

物品會計官吏宛

(第二號) (此所一寸五分計リ餘白ヲ存シ置クヘシ)

證明書

一何々

此元價金(元價格ハ會計課ニ於テ原帳ニヨリ記入ス)

右ハ徵兵檢査用トシテ使用中何々ニ依リテ失毀損ニ係ル事毀損(亡失)致シ候儀ハ前記事實ノ通相違無之此段證明候也

何郡市役所

年月日

知事宛

亡失又ハ毀損者官姓名印

(第二號)

備品修繕濟報告書

品目	員數	一個修繕代	合計
何品	何程	何程	金何程
、	、	、	、
、	、	、	、

右何月中修繕セシ徵兵檢査用備品前記ノ通ニ付此段及報告候也

年月日

物品會計官吏宛

何郡市長官姓名印

(第四號)

還納書

一何々

何程

但徵兵檢査用トシテ使用ノ處何々^{不用ノ事由}ニ依リ不用ニ屬スル分(何々^{毀損ノ事由}ニ依リ修補ヲ加ヘ難キ分)

右還納候也

何郡市役所

年月日

取扱主任官姓名印

物品會計官吏宛

(第五號)

徵兵檢査用不用(毀損)物品處分濟報告

品目	員數	處分ノ事由	處分ノ月日	公賣代價
何々品	何個	公賣	何月何日	金何程
何品	何個	燒(棄)却	何月何日	〇

右之通りニ候也

年月日

物品會計官吏宛

何郡市長官姓名印

(第六號)

購入備品報告書

品目	員數	一個	代價合計
何品何	個何	程金何	程
、	、	、	、

右、何月中購入徵兵検査用物品前記ノ通りニ付此段及報告候也

年月日

何郡市長 姓

名印

物品會計官吏宛

購入消耗品報告書

品目	數量	一個	代價合計
何品何	程何	程金何	程
、	、	、	、

右、何月中購入徵兵検査用消耗品前記ノ通りニ付此段及報告候也

年月日

何郡市長 姓

名印

物品會計官吏宛

(第七號)

購入消耗品報告書

品目	數量	一個	代價合計
何品何	程何	程金何	程
、	、	、	、

右、何月中購入徵兵検査用消耗品前記ノ通りニ付此段及報告候也

年月日

何郡市長 姓

名印

物品會計官吏宛

(第八號)

徵兵検査用消耗品領收証

品目	數量	量	使用ノ目的
何々々	何	程	何々ニ使用ノ分
郵便切手	何錢	何枚	何々郵便ニ使用ノ分
、	、	、	、

右正ニ受取候也

年月日

何郡市役所

取扱主任 官 姓名 名印

物品會計官吏宛

(第九號)

何年中徴兵検査用消耗品受拂精算書

品目	前年度ヨリ越高	本年度受高	本年度使用高	差引殘額年度 ~越高
何々用紙	何枚	何十枚	何枚	何十枚
焚炭	何貫目	何貫目	何貫目	〇
何々々	、	、	、	、

但別紙各自領収書何葉ノ通り
右之通相違無之此段報告候也

年月日

何郡市役所
取扱主任 官 姓名 印
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

物品會計官吏宛

訓令第四十五號 明治二十三年三月二十八日
傳票調理規程左ノ通相定メ明治二十三年度ヨリ施行ス

郡役所 縣立學校

傳票調理規程

第一條 金錢出納順序第一條ニヨリ金錢ヲ収支スルトキハ本人ノ請求書又ハ納書ノ餘白ヨ一號書
例ノ如ク會計年度款項目節其他ノ印ヲ押シ郡長又ハ校長ノ決裁ヲ受ケ之ヲ傳票トスヘシ

第二條 本人ノ請求書納書ヲ得難キモノハ二號書例科目ノ流用或ハ更訂ヲナストキハ三號書例ノ

傳票ヲ作ルヘシ

第三條 請求書納書中金員人名其他必要ノ文字ヲ訂正シタルトキハ本人姓名ノ下ニ押捺シタルト
同ノ印ヲ押捺セシムヘシ誤記ノ訂正ハ總テ本行ノ右側ニ正書シ改捺ヲ加フヘカラス

第四條 第二條ノ傳票首幹金員ハ改竄塗抹スヘカラス若シ其内譯ヲ訂正スルトキハ朱線ヲ以テ全
行ヲ消抹シ其側ニ墨書シ發票者捺印スヘシ

第五條 請求書納書ハ収支ノ事由物件種目員數單價ヲ明記セシムヘシ
但事由ノ記載十分ナラサルモノハ餘白ニ朱書シ之ヲ補ヒ發票者捺印スルモ妨ケナシ

第六條 傳票ハ各主務部ニ於テ節毎ニ調整記帳ノ后内譯簿ノ部門ニ從ヒ區分シテ順次編纂シ會計
部ニ保存スヘシ

第七條 決裁書ハ傳票一通毎ニ添付スヘシ
但消耗品中簿冊ヲ以テ購入ノ決裁ヲ受ケルモノアルトキハ傳票ニ其旨ヲ記入スヘシ

何部主任官姓名○
何部○
何課長○
何課長○
郡長○

本人請求書
縣立學校ノ分モ相當科目印ヲ用ヒ郡長ハ校長トシ以下夫々記載スヘシニ號三號書例皆同シ

(收)支何號
何月何日買入經何簿ニ登記スルヲ以テ決裁書添付セス
(一號書例)

(收入)傳票
何年度
郡吏員給料旅費及廳中諸費
庶費
需用費
消耗品費

(收)支第何號
(用紙淡紅色紙)
(二號書例)

明治何年何月何日 第何課長○ 何部主任官姓名○
郡長○ 第何課長○ 何部○
何部○

裁決 月日	何年 何月	何日	記帳		何日	何日	何日	何日	何日
			月	日					
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

(雜)部(何々々々) (地)方(何々) (町)村(何々) (稅) (稅)
 一金何圓○ 住所 何某(渡)(納)
 但(何々)用何品何個ニ付何錢別紙決裁書ノ通(外類)ニ從テ詳記)
 右(收入)之儀會計部ニ御命令相成度候也
 (支出)之儀會計部ニ御命令相成度候也

金錢收支用紙

學役 校所 名名

報第何號		(用紙青紙)		明治何年何月何日		第何課長○	何部主任官姓名○
郡長○		第何課長○		何部○		何部○	
何月何日記帳		何年度		款	項	目	節
(地方稅)		(町村稅)		何々	何々		
一金何圓○		但(經費流用別紙伺指令ノ通り)何々ニテ科目違ニ相成候ニ付更訂ノ分)		内		何費ヨリ何費へ	
金何圓		金何圓		右報告候也		何々	
報告用紙		學役		校所		名名	

訓令第六十號 明治二十三年四月四日 郡役所 市役所

徵兵諸費請求手續左ノ通相定メ明治二十三年度ヨリ施行ス

第一條 徵兵檢査所ニ屬スル費用ハ第一號書式ニ依リ受取人ノ請求書ヲ取纏メ第二號書式ノ添書

ヲ附シ所要ノ時々差出スヘシ

第二條 徵兵檢丁旅費ハ第三號書式ニ依リ請求スヘシ

第三條 徵兵入營旅費ハ第四號書式ニ依リ請求スヘシ

第四條 前各條ノ金員ハ渾テ受取人へ直ニ交附ス

第五條 明治二十二年^{十一月}訓令第二百四十一號ハ明治二十三年度ヨリ適用セス

(第一號)

(物品請求シタルトキノ例)

物品代(物品修繕代)(何々代)請求書

一金何程

内譯

何府縣郡市町番地

何 某印

品	目	數	量	單	價	金	員
何々直シ	何	何	合	何	程	何	程
何々	何	何	個	何	程	何	程
何々	何	何	百	目	何	程	何
何	何	何	何	何	何	何	何

何	々	何	個	何	程	何	程
(右書以下記載ヲ要セス以下皆全シ) (借上料ヲ要シタルトキノ例) 借上料請求書 一金何程 内譯 何府縣郡市町番地 何 某印							
區別	員數	日數	一日ノ借料	金	員		
家屋	一棟或ハ何坪	何日	何程	何	程		
但何々用トシテ何月何日ヨリ何日マテ御借上ノ分 何々品 何 個 何 日 (二個)何 程 何 程 (但書前文例ニ全シ) (小使給料請求ノ例) 給料請求書 一金何程 内譯 何府縣郡市町番地 何 某印							

金員	勤日數	日給額	專	由		
何程	何日	何錢	何月何日(或ハ何月何日ヨリ何日マテ)何地徵兵検査所小使トシテ御雇ノ分			
(人夫賃請求ノ例) 人夫賃請求書 一金何程 内譯 何府縣郡市町番地 何 某印						
區別	月日	差立届先并經過ノ地名	里程	金員		
御用狀持脚夫	何月何日	何地ヨリ何郡村何某方へ	何里	何程		
御用使	何月何日	全	何里	何程		
(運搬賃請求ノ例) 御用物差立運搬賃請求書 一金何程 内譯 何府縣郡市町番地 何 某印						
月日	差立	品目	量目	里程	賃錢	計

何月何日	何所	紙(油紙)包	何貫目	何里	何貫目	金何程
何月何日	何所	何々	何百目	何里	何々	金何程

(本文書式ヲ示シタルモノ、外費用ヲ要スルトキハ總テ右ノ例ニ準スヘシ)

(第二號) 記

一金何程 (一費目毎ニ區分スヘシ) 請求書何通

但何地檢査所用トシテ何々品買上代(或ハ借上料)(小使雇上ノ分)

右別紙請求書之通相違無之ニ付及進達候也

年 月 日

縣知事宛 郡市長 姓 名印

(第三號) 徵兵檢丁旅費請求書 [本書ハ連署ニ
テモ妨ケナシ]

此譯

金員	里程	一里ノ旅費額	滞在日數	全上一日ノ常額	宿泊數	全上一泊ノ額	居住地	姓	名
何程	何里	何程	何日	何程	何泊	何程	何郡村	檢丁又ハ抽籤惣代	某

但身体等檢査(抽籤惣代)トシテ何月何日居町(村)出立何日何地へ着(何月何日ヨリ何日マテ何地滞在(或ハ宿泊)何日何地出立何日歸着)

金員 里程 車駕賃 車駕ヲ要シタル事由 居住地 姓 名

何程	何里	何程	具	癩疾或ハ不具	何郡村	檢丁又ハ檢丁某父兄	某
----	----	----	---	--------	-----	-----------	---

但何月何日何地檢査所へ出頭ノ節乗用ノ分

右ノ通相違無之候條前記何某(等)へ御下附相成度候也

年 月 日

縣知事宛 郡市長 姓 名印

(第四號) 徵兵入營旅費假受請求書 [本書ハ連署ニ
テモ妨ケナシ]

此譯

金員	里	數	滞在日數	宿泊數	實費派車	實費派船	居住地	姓	名
何程	何里	何程	何日	何泊	何程	何程	何郡村	何	某

但何々入營トシテ何月何日居町(村)出立(何地ヲ經テ)何月何日何地へ着(何日ヨリ何日マテ滞在(或ハ宿泊)何月何日入營ノ積リ居町(村)ヨリ何地マテ陸路何里(居町)村ヨリ何地ヲ經テ何地マテ陸路何里何地間海軍何哩何地間海軍何里何地ヨリ何地マテ陸路何里)

右ノ通相違無之候條前記何某(等)へ御下附相成度候也

年 月 日

縣知事宛 郡市長 姓 名印

●訓令第六十五號 明治二十三年四月十一日 市役所 郡市長 町村役場

自今賞勳年金及軍人恩給ハ直ニ本人へ交附スヘキニ依リ市町村長ニ於テハ其實勳年金ハ年金票軍

人恩給ハ恩給登錄寫帳ノ披閱ヲ了シ故障ナキトキハ第一號書式ニ依リ左ノ期限ニ其旨届出ヘシ

但軍人恩給ニ係ル届書ニハ第二號書式ノ生存證書ヲ添附スヘシ

一軍人恩給

毎年七月四月ノ五日

一賞勳年金

毎年六月ノ五日

但軍人恩給ハ本年四月ニ限り十五日トス

(第一號)

年金票(恩給登錄寫帳)披閱済之儀ニ付御届

當所轄内何村何番地何某(及何村何番地何某)所有ノ年金票(恩給登錄寫帳)遂披閱候處故障無之候
此段及御届候也

年 月 日

市町村長 姓

名 印

(第二號)

生存證書 (用紙美濃紙)

何年何月何日免(罷)役(退職)

陸軍大(少)尉 何 某

當何年何月何年何ヶ月

右現ニ生存シタルハ面アタリ之ヲ檢スル處ニシテ當市(町村)戸籍ニ有之候也

但當(役所)役場ニ於テ之ヲ檢ス

(本人病氣ナルトキハ左ノ如ク記スヘシ)

但本人病氣ニ付其居宅ニ就キ之ヲ檢ス

(他家ニ寄寓スルモノハ左ノ如ク記スヘシ)

但現住當市(町)内何某ノ宅ニ於テ之ヲ檢ス

年 月 日

市町村長 姓

名 印

(孤兒生存證書ノ例)

生存證書 (用紙美濃紙)

何年何月何日戰死(死亡)

陸軍大(少)尉故 何 某長(男)女

何 某

當何年何月何年何ヶ月

(右書以下前文例ニ全シ)

(寡婦生存證書ノ例)

生存證書 (用紙美濃紙)

何年何月何日戰死(死亡)

陸軍大(少)尉故何 某寡婦 某

當何年何月何年何ヶ月

右現ニ生存タルハ面アタリ之ヲ檢スル處ニシテ當市(町村)戸籍ニ有之且再嫁セサル證據ノ爲メ左ノ親戚同郷戸主ノ者連署捺印致候也

但其居宅ニ就キ之ヲ檢ス

(他家寄寓ノモノハ前文例ニ全シ)

富山縣何郡何村番地士族(平民)

年 月 日

本人何某兄弟 或ハ伯叔父 從父兄弟等

全何所番地士族(平民)

本人全郷

市町村長

何

某印

再嫁ヒサルノ隣人ハ其夫方ノ親戚ニ限ルト雖モ其親戚ナキ者ハ全郷戸主二名ニ

何

某印

再嫁ノ檢査ハ市町村長又ハ其代理ニテモ必ス其居宅ニ就キ之ヲナスヲ法トス又
ア證スルモ妨ケナシ

訓令第六十八號 明治二十三年四月十一日 郡役所 警察署

官廳購置ノ官報代ハ本年四月以降其官署ヨリ直ニ官報局へ送納シ購置義務者官報代ハ明治二十三
年三内閣訓令第三號ノ通り心得ヘシ

但明治二十年ニ達第七十五號ハ自今廢止ス

訓令第五百五十五號 明治二十三年十二月五日 郡役所

明治十九年十一月達第六十七號ヲ廢止ス

訓令第五百五十六號 明治二十三年十二月五日 警察署 縣立學校

明治十九年十一月達第六十八號ヲ廢止ス

訓令第三十五號 明治二十四年三月六日 郡役所 間稅分署長

間接國稅犯則者處分法ニ依リ沒收セシ物品取扱手續左ノ通相定ム

間接國稅犯則者處分法ニ依リ沒收セシ物品ハ本廳物品會計官吏ニ引繼クヘシ

第一條 間稅署長又ハ分署長ニ於テ沒收セシ物品ハ本廳物品會計官吏ニ引繼クヘシ

第二條 物品會計官吏ニ於テ前條ノ物品引繼ヲ受ケタルトキハ其保管證書ヲ以テ引繼ニ係ル分ハ其保管人ノ所在郡長高岡市ニ係ルモノハ別水郡長トスニ移牒シ公賣方ヲ囑托スヘキモノトス

第三條 郡長ニ於テ公賣方囑托ヲ受ケタルトキハ沒收物品公賣取扱規程ニ依リ取扱フヘシ

第四條 間稅分署長ニ於テ現品富山分署ヲ除ク及保管證書ヲ以テ其保管人富山市所在 沒收シタルモノニ限リ便宜所在郡長高岡市ニ係ルモノハ別水郡長トス直ニ引繼クコトヲ得此場合ニ於テ該郡長ハ第三條ニ依リ取扱フヘシ

第五條 郡長ニ於テ沒收物品公賣取扱規程第六條ニ依リ落札セシトキハ代價ノ當否ヲ査定シ相當ト認ムルトキハ品目數量及金額拂下人名等詳記シタル仕譯書相添ヘ處分方伺出ヘシ

第六條 郡長ニ於テ物品ヲ拂渡タルトキハ其時々第一號書式ニ依リ物品會計官吏へ報告スヘシ但物品領收證書ヲ添付スヘシ

第七條 公賣方囑托ヲ受ケタルモノ及ヒ間稅分署長ヨリ直ニ引繼ニ係ル廢敗物又ハ輕微品ニノ價値ナキト認ムルモノハ適宜燒却又ハ棄却シ其時々第二號書式ニ依リ物品會計官吏へ報告スヘシ

(第一號書式) 間接國稅犯則ニ係ル沒收品處分濟報告

品 目	員 數	拂 下 代 價	拂 下 月 日	拂 下 人 任 所 氏 名
何 品	何 個	金 何 程	何 月 何 日	何 町 村 何 姓
何 品	何 個	金 何 程	、 、 、 、	、 、 、 、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、

右報告候也

年 月 日

郡長 氏 名 印

物品會計官吏宛

(第二號書式) 間接國稅犯則ニ係ル沒收品處分濟報告

品 目	員 數	處 分 濟 事 由	處 分 濟 月 日
何 品	何 個	公賣ニ付スルモ價值ナキモノニ付燒(棄)却	何 月 何 日
何 品	何 個		何 月 何 日
、	、		、
、	、		、
、	、		、

右報告候也

年 月 日

郡長 氏 名 印

物品會計官吏宛

訓令第三十六號 明治二十四年三月六日

沒收物品公賣取扱規程左ノ通相定ム

第一條 沒收物品公賣取扱規程

依リ廣ク公告スヘシ 但腐敗ノ憂アルモノハ此限ニアラス

第二條 前條揭示又ハ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 競争入札ニ付ス物品數量
- 二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取扱ヲ擔任スル官吏ノ官氏名
- 三 競争執行ノ場所及日限時刻
- 四 入札ノ保證金
- 第三條 入札保證金ハ其物品ノ見積代金百分ノ五トス
- 第四條 競争入札ニ付シタル物品ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ
- 第五條 入札中一モ前項ニ豫定シタル價格ノ制限ニ違セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再入札ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第六條 入札ヲ開封シタルトキハ最高價ノモノヲ落札トス 但代金ハ納入告知書ヲ發シ納入セシムルニ付富山本金庫若クハ支金庫ノ領收證書ヲ檢閲シ現品ヲ下渡スヘシ
- 第七條 豫定價格一口拾圓ニ滿タサルモノハ隨意契約トシ保證金ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テモ公賣ノ方法ハ都テ本規程ニ依リ取扱フヘシ
- 第八條 公賣物品入札方法ハ別紙公賣物品入札人心得書ニ依リ取扱フヘシ
- 第九條 保證金ヲ沒收シタルトキハ即日其事由ヲ具申シ同時ニ現金ハ本廳收入官吏ヘ送付スヘシ 公賣物品入札人心得
- 一 公賣物品ノ入札ヲ爲サントスル者ハ此規則ノ趣意ヲ了得シ現品點覽ノ上第一號書式ニ依リ入札スヘシ
- 一 入札ニ加ハラントスル者ハ入札保證金ヲ差出スヘシ若シ落札者契約ヲ結ハサルトキハ該保證金

ヲ没収ス

一 入札ハ左ノ雛形ニ由リ一番號毎ニ封書トシ其番號及保證金高等ヲ記載スヘシ

第何號 物品 入札
保證金何程ヲ添

町村番地 姓名

印

一 入札價格不相當ト認ムルカ或ハ落札者契約ヲ結ハサルトキハ再入札ニ付スヘシ

但落札者契約ヲ結ハサルトキハ二番札以下ニ落札ヲ命スルコトアルヘシ

一 開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行ヒ一廉毎ノ金最高價ヲ以テ落札トス若シ價格同一ナルモノハ抽籤ヲ以テ落札ヲ定ム

但左ニ掲グル入札ハ採用セス

一 入札人又ハ其代理人開札ノトキ其場所ニ出席セサルモノ

一 入札ニ記載シタル金額ノ判明ナラサルモノ

一 開札ノ後ハ違算書損等ノ故障申立ルモ一切採用セス強テ故障申立ルモノハ違約トシテ保證金ヲ没収シ其入札ヲ取消ス

一 落札ヲ命シタルトキハ即時ニ第二號書式ノ契約書ニ保證金トシテ代價百分ノ十ヲ差出スヘシ入札保證金アルモノハ其保證金ニ差繼キ差出スヘシ保證金ニ對シテハ領收證書ヲ交付スヘシ

一 落札人ヘハ代金納入告知書ヲ交付スヘキニ付之レニ現金ヲ添ヘ富山本金庫又ハ支金庫ヘ相納メ該所ノ領收證及收入官吏ノ證印ヲ得テ第三號書式ノ物品領收證書ト共ニ差出シ現品ヲ受取ルヘシ

但納期ヲ過キ納金手續ヲナサハルトキハ拂下ヲ停止ノ上保證金ヲ没収ス

(第一號書式) 入札 (一番號毎ニ入札スヘシ)

第何號

一何品

一何品

何點 何程

計何點此入札金何程

右代價ヲ以テ御拂下相成度落札ノ上ハ御規則ヲ相守リ聊カ違背不仕依テ保證金何程相添入札仕候也

年月日

住所

姓 名 印

郡長宛

(第二號書式) 契約書

一第何號

何十點

此入札金何程

一第何號

何點

此入札金何程

右金額ヲ以テ私ヘ御拂下相成リ奉畏候依テ左ノ通り契約仕候也

一 保證金トシテ何程相納候

一 代金ハ御命令ノ期日迄ニ可相納若シ違約候節ハ保證金沒収等ノ御處分相成候トモ聊カ異議不中立候

年月日	郡長宛	住所	姓名印
(第三號書式) 物品受取證			
一何々品	何十點		
一何々品			
右御拂下ニ付正ニ受取候也			
年月日	郡長宛	住所	姓名印
訓令第四十五號 明治二十四年三月二十三日		郡市役所 警察署 縣立學校	
地方會計規則別冊ノ通相定ム			
(別冊)			
地方會計規則			
第一章 總則			
第一條 地方稅并備荒儲蓄ニ屬スル歳入歳出及其物品ノ會計ハ總テ本規則ニ據ル			
第二條 地方稅并備荒儲蓄ニ屬スル歳入ヲ歳入トシ其支出ヲ歳出トス			
第三條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル			
第四條 歳入歳出ニ屬スル科目ハ別ニ定ムル所ニ據ル			
第五條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル			

一納期ノ一定シタル歳入ハ其納期末日ノ屬スル年度

但納期ノ翌年度ニ涉タル税金ハ其徴収スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

一隨時收入ハ其收入スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

第六條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

一年金ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

一給料、旅費、文具料、賄料、退官賜金、死亡賜金、療治料、患者費、家屋物品ノ借上料、廣告料、手數料、運搬費、缺損補填金等ノ類ハ其支出スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

一備荒儲蓄救助金ハ罹災ノ日ノ屬スル年度

一廳中雜費、土木建築費、其他物件購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

一前各項ニ掲グル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第七條 一會計年度所屬歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度五月三十一日迄ニ完結スヘシ

第八條 歳入歳出金ノ収支及物品ノ出納ヲ掌ルモノヲ出納吏トス

第九條 毎年度所屬ノ歳入歳出金ヲ出納吏ニ於テ收支スルハ翌年度五月十五日限リトス

第十條 各年度ノ歳入及概算渡ノ返納金ニシテ翌年度五月十五日ヲ過キ收入スルモノアルトキハ之ヲ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第十一條 各年度ノ歳出ニシテ翌年度五月十五日ヲ過キ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ之ヲ翌年度ノ歳出ニ編入スヘシ

第二章 歳入

第十二條 地方稅ハ府縣稅徵收法其他ノ規程ニ隨ヒ之ヲ徵收スヘシ

第十三條 雜收入ハ地方稅雜收入收納規程ニ隨ヒ之ヲ收納スヘシ
 第十四條 繰越金、國庫下渡金、國庫下付金、國庫補助金、府縣收入金、備荒儲蓄收入金、寄附金ノ収入ハ地方稅雜收入收納規程ニ據ル

第三章

歲出

第十六條 知事ハ毎年度仕拂豫算ヲ定メ其仕拂命令ヲ發シ出納吏ヲシテ其仕拂ヲ爲サシム
 第十七條 知事ハ郡役所ニ屬スル歳出ノ仕拂命令ヲ郡長ニ委任ス
 第十八條 本廳ニ中央出納吏ヲ置ク第四課長ヲ以テ之ニ充ツ
 第十九條 本廳及郡役所ニ出納吏ヲ置ク本廳ハ第四課長郡役所ハ會計ヲ掌ル首席郡書記ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條 知事ハ委任シタル仕拂命令者中央出納吏及本廳出納吏ニ毎年度仕拂豫算額ヲ令達ス委任ヲ受ケタル仕拂命令者ハ所屬出納吏ニ其豫算額ヲ通達スヘシ
 第二十一條 知事ハ毎年度仕拂豫算ノ月額ヲ定メ其月額ハ毎月一回若クハ數回ニ仕拂命令ヲ中央出納吏ニ發シ本廳出納吏ニ現金ヲ交付セシム

第二十二條 委任ヲ受ケタル仕拂命令者ハ其仕拂命令ヲ發シ所屬出納吏ヲシテ其仕拂ヲ爲サシムヘシ
 第二十三條 委任ヲ受ケタル仕拂命令者第二十條仕拂豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ月額ヲ豫定シ知事ノ承認ヲ受クヘシ其承認ヲ得タルトキハ該金額ヲ所屬出納吏ニ通達スヘシ
 但月額ノ變更ヲ要スルトキハ本條ノ手續ニ依ルヘシ
 第二十四條 知事ハ其承認シタル月額ニ依リ毎月一回若シクハ數回ニ仕拂命令ヲ中央出納吏ニ發シ委任シタル仕拂命令者所屬ノ出納吏ニ現金ヲ交付セシム

第二十五條 出納吏現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ縣稅出納所又ハ爲換方ヲシテ其現金ヲ保管セシムヘシ

第二十六條 出納吏仕拂命令ヲ受ケタルトキハ豫算ニ超過セサルヤ定規ニ違フコトナキヤヲ調査シ正當ナルトキハ其債權者ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第二十七條 仕拂命令者現金前渡ノ必要アリト認ムルトキハ主任ノ吏員ニ委任シ其仕拂ヲ爲シシムヘシ

第二十八條 前條現金ノ前渡ヲ受ケタル吏員仕拂ヲ爲シタルトキハ毎月計算表ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ翌月五日限リ出納吏ヲ經テ差出スヘシ但備荒儲蓄金ハ該取扱順序ニ據ル

第二十九條 現金前渡ヲ受ケサルモノ出張先ニ於テ臨時郵便電信料、其他脚夫賃、囚人護送途中賄料等ノ支拂ヲ爲シタルトキハ歸廳ノ上許可ヲ得テ其證據書類ヲ添ヘ請求スルコトヲ得

第三十條 概算渡ヲ爲スハ各地ニ出張ヲ命シタルモノ、旅費ニ限ル其精算ノ後返納金アルトキハ仕拂命令者ハ返納人ニ對シ返納告知書ヲ發シ返納人ヲシテ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ本廳ハ縣稅出納所其他ハ所屬爲換方ニ拂込ヲ爲サシムヘシ

縣稅出納所又ハ爲替方ニ於テ前項ノ拂込ヲ受ケタルトキハ返納告知書ハ之ヲ領置シ領収證ハ直チニ納人ニ交付シ別符ハ即日當該出納吏ニ送付スヘシ

第三十一條 出納吏ニ於テ縣稅出納所又ハ爲換方ヨリ前條別符ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ裏書ヲ爲シ縣稅出納所又ハ爲換方ニ交付シテ戻入ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條 過渡又ハ誤拂ノ返納金アルトキハ第三十條及第三十一條ニ依リ戻入ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十三條 委任ヲ受ケタル仕拂命令者項以下ノ科目ヲ流用セントスルトキハ事由ヲ詳具シ計算

書ヲ添ヘ伺出ツヘシ

第二十四條 年度内仕拂ノ完了セサルモノアルトキハ委任ヲ受ケタル仕拂命令者ハ年度内仕拂未
濟報告書ヲ調製シ翌年度四月五日迄ニ差出スヘシ

第三十五條 翌年度五月十五日ヲ過キ豫算ノ殘餘アルトキハ委任ヲ受ケタル仕拂命令者ハ其科目
金額ヲ詳記シ五月十七日限リ報告スヘシ

第三十六條 前條ノ豫算殘額ハ返納告知書ヲ發シテ戻入ノ手續ヲ爲サシム

第三十七條 備荒儲蓄法施行規則第三條但書豫備金ノ仕拂ハ従前ノ規定ニ據ル

第四章

帳簿

第三十八條 中央出納吏ハ地方税ニ關スル日記簿、原簿、内譯簿、月額支出簿、及備荒儲蓄ニ關スル
出納簿、内譯簿ヲ備ヘ整理スヘシ

但登記ノ順序ハ別ニ之ヲ定ム

第三十九條 出納吏ハ出納簿及支出簿ヲ備ヘ出納簿ニハ現收支ヲ登記シ支出簿ニハ支出ノ科目ヲ
區分シ仕拂豫算額仕拂命令額豫算殘額ヲ登記スヘシ

第四十條 現金前渡ヲ受ケタル吏員ハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

第四十一條 郡市役所ハ備荒儲蓄豫備金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

第四十二條 縣税出納所及其出張所并爲替方ハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

但縣税出納所ハ別ニ内譯簿ヲ備ヘ中央出納吏ト本廳出納吏ノ區分ヲ登記スヘシ

第四十三條 本章ニ定ムルノ外適宜補助簿ヲ設クルハ妨ケナシ

第五章

現金保管

第四十四條 地方税ノ現金ハ確實ナル銀行若クハ其他ノモノヲシテ保管及ヒ出納ノ取扱ヲ爲サシ

ムヘシ其本廳ニ屬スルモノヲ縣税出納所及ヒ其出張所トシ其他ニ屬スルモノヲ爲替方トス

第四十五條 前條ノ取扱ヲ命シタルトキハ其保管金額ニ對スル抵當トシテ公債證書ヲ取置クヘシ

但公債證書ハ取扱者所有ノ公債證書ニ限ル其價格ハ本廳ノ定ムル所ニ據ル

第四十六條 現金取扱ニ係ル命令事項ハ別ニ之ヲ定ム

第四十七條 地方税經濟ニ係ル救育費、共有學資金、衛生恩賜金、水災恩賜金、及備荒儲蓄現金ハ確
實ナル銀行若クハ其他ノモノニ利付預ケトシ其出納ノ取扱ヲ爲サシム

但預ケ金ニ對スル抵當ハ第四十五條ノ例ニ據ル

第六章

支出證明

第四十八條 出納吏ハ毎月仕拂金ノ證明トシ計算表ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ差出
スヘシ出納吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納吏ハ其取扱ニ係ル分ヲ打切り十日以内ニ差出スヘシ

但郡役所ノ出納吏ハ所管命令者ニ之ヲ送付スヘシ

第四十九條 現金前渡ヲ受ケタル吏員ハ仕拂金額ハ前條計算表ニ併算スヘシ

第五十條 委任ヲ受ケタル仕拂命令者ハ出納吏ノ送付ニ係ル證明書類ニ就キ其事故ヲ調査シ及記
簿ニ照合シ相違ナキトキハ其確實ヲ保證シテ五日以内ニ差出スヘシ

第五十一條 仕拂證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 證書ハ正當受取人ノ領收證書ニ限ル事實證書ヲ得難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル仕拂人
ノ仕拂證明書ヲ以テ代用スルヲ得

但領收證書及仕拂證明書ハ總テ證書面ニテ算出方物件種類事由トモ明瞭ナルヲ要ス

一 旅費ノ領收證書ニハ其用途及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所等ヲ詳記セル明細書ヲ添付スヘ
シ

但領収證書ニ其事由ヲ詳記セルモノハ此限ニアラス

迂路ヲ經テ旅行セシモノ又ハ病氣其他ノ事故ニヨリ公務ノ外日數ヲ要シタルトキ若クハ旅費實費拂テ爲シタルトキハ其認可書ヲ添付スヘシ

一 概算渡ニ係ル不足金ノ領収證書若クハ過剰金ノ返納證書ニハ其全部精算ノ明細及概算渡金ニ對比シタル計算ヲ詳記スヘシ

一 第二十九條ニ係ル仕拂ハ其事由ヲ詳記シタル本人ノ領收證書ニ正當受取人ノ領收證書ヲ添付スヘシ但郵便電信料ハ届先税額等ヲ詳記シタル明細書ヲ添付スヘシ

第五十二條 出納吏ハ毎年度仕拂金ニ對スル決算表ヲ調製シ翌年度五月三十一日マテニ差出スヘシ若シ出納事務完結前ニ出納吏交替セシトキハ前任出納吏ノ取扱タル分ヲ併算スヘシ

但郡役所ノ出納吏ハ所管命令者ヲ經由スヘシ

第五十三條 仕拂證明後科目ノ更正ヲ要スルモノアルトキハ其事由ヲ具シ許可ヲ得テ科目更正計算表ヲ差出スヘシ

第七章 出納吏

第五十四條 出納吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシ其責任ヲ免カレハコトヲ得ス

但知事ノ命シタル代理者ノ所爲ニ付テハ此限ニアラス

第五十五條 知事ノ命シタル出納吏ノ代理者ハ其代理シタル所爲ニ付其責任ヲ免ルハコトヲ得ス

第五十六條 出納吏交替ノトキハ前任出納吏ニ於テ引繼ヘキ金錢物品其他書類ノ目録各二通ヲ作リ後任出納吏立會ノ上帳簿現品ニ照シ相違ナキトキハ受授ヲナシ其年月日ヲ記入シ前後ノ出納吏署名捺印シ各一通ヲ所持スヘシ

第五十七條 前條ノ受授ヲ了シタルトキハ引繼目録ノ寫ヲ以テ後任出納吏ヨリ即日届出ツヘシ

但中央出納吏及本廳出納吏ノ外ハ所管命令者ヲ經由スヘシ

第五十八條 出納吏死亡其他ノ事故ニヨリ自身ニ計算表ヲ調製スルコト能ハサルトキハ他ノ吏員ニ命シテ之ヲ調製セシム但此場合ニ於テハ立會人ヲ命シテ立會ヲ爲サシムヘシ

第五十九條 現金前渡ヲ受ケタル吏員其保管ノ現金紛失等ノ場合ニ於テハ避ケ得ヘカラサル事實ニ起因スルモノノ外辨償ノ責ヲ免ルハコトヲ得ス

第八章 工事及物件ノ賣買貸借

第六十條 工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ競争ニ付スヘシ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意契約ヲ爲スコトヲ得但別ニ規則アルモノハ其規定ニ據ル

一 一人又ハ一會社ニテ専有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルハトキ

一 土地又ハ家屋ノ買入借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造等ニ限リアル場合

一 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

一 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニヨリ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

一 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルハトキ

一 一廉五圓未満ノ工事ヲナストキ

一 一廉五圓未満ノ物品ヲ買入レ又ハ借入ルハトキ

一 囚徒雇役シ又ハ其製造物品ヲ直接ニ買入ルハトキ

一 前各項ノ外事實競争ニ付シ難キ場合ニ於テ殊ニ許可ヲ得物品ヲ賣買貸借スルトキ

第六十一條 競争ハ入札ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第六十二條 入札ヲ施行セントスルトキハ十日以前ヨリ揭示又ハ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ廣告ス
ヘシ

第六十三條 廣告ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ
一 競争入札ニ付スル事項并品質數量
一 仕様書及契約書按テ示ス場所
一 競争執行ノ場所日限及時刻
一 入札ノ保證金額

第六十四條 競争ニ加ラントシ若シクハ其契約ヲ結ハントスル者ニハ現金ヲ以テ保證金ヲ納メシ
ムヘシ

第六十五條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據ルヘシ
一 競争ニ加ラントスル者ハ豫定價格百分ノ五以上
一 豫定價格拾圓未満ハ保證金ヲ免除スルコトヲ得
但豫定價格拾圓未満者ハ其事項ノ代金百分ノ十以上

第六十六條 競争入札ニ付シタル物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ開札ノトキ其場所ヘ置クヘシ

第六十七條 競争ノ落札者請負契約ヲ結ハサルトキハ違約トシテ入札保證金ヲ沒收スヘシ

第六十八條 開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ入札人又ハ其代人開札ノ時刻ニ出席セサル
トキハ其入札ハ無効トスヘシ

第六十九條 入札價格一モ豫定價格ニ違セサルトキハ再入札ニ付シ尙價格不相當ナル場合ハ入札
ヲ取消スヘシ

第七十條 開札ノ上價格同一ノモノアルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十一條 開札ノ後違算又ハ誤記ヲ理由トシ故障中立ツルモノアルモ一切採用スヘカラス強テ
故障ヲ中立ツルモノハ違約トシテ保證金ヲ沒收スヘシ

第七十二條 開札ノ上金員ノ文字判明セサルモノハ其入札ハ採用ス可カラズ

第七十三條 契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計仕譯落成期限受渡期限保證金額契
約違背ノトキ保證金ヲ沒收スルコト其他一切必要ナル條件ヲ掲シムヘシ
但五圓未満ノ隨意契約ニ係ルモノハ左ノ書類ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得即時ニ現品ヲ
納付スルモノハ契約書ヲ要セス
一 設計仕譯書ノ末ニ承諾ノ旨ヲ記シ受負人署名捺印シタルモノ
一 請負人ノ署名捺印セル承諾書

第七十四條 隨意契約ノ場合ニ於テハ金額五圓以内ハ契約保證金ヲ免除スルコトヲ得

第七十五條 落札人契約ヲ結ハス又ハ受負者契約ヲ履行セサルトキハ爾後六箇月間物件賣買ノ受
負ヲ命セサルヘシ

第九章 物品出納

第七十六條 物品出納ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十章 雜則

第七十七條 金錢出納ニ關スル證書類ニ記載スル金員ノ文字ハ改削塗抹ヲ禁ス一二三十廿卅ノ
文字ハ必ス壹貳參拾貳拾參拾ノ字體ヲ用フヘシ
但金員ニ關セサル數量又ハ事故ノ誤寫ハ朱ノ貳線ヲ畫シ朱書訂正スルヲ得其訂正ヲ爲シタル
下ニ請求書領収證書ハ本人其他ハ主任吏員ノ捺印ヲ要ス

第七十八條 帳簿ノ様式其他ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第七十九條 此規則ハ明治二十四年度所屬ノ會計ヨリ之ヲ施行ス
訓令第四十七號 明治二十四年三月二十三日 郡役所 警察署 縣立學校
物品會計規則別冊ノ通相定ム

(別冊) 物品會計規則

第一章 總則

第一條 此規則ニ於テ物品ト稱スルハ地方稅經濟ニ屬スル器具器械消耗品動物其他一切ノ動産ヲ云フ

第二條 物品ヲ分ツテ備品消耗ノ二種トシ器具器械被服帶具動物ノ類ヲ備品トシ消耗ニ屬スルモノヲ消耗品トス

第三條 郡長警察署長縣立學校長ニ物品出納ノ命令ヲ委任ス

第四條 本廳ハ內務部及警察部ニ屬スルモノハ第四課長監獄署ニ屬スルモノハ庶務課長郡役所ハ會計ヲ掌ル首席書記警察署ハ內勤警部縣立學校ハ首席書記ヲ以テ物品出納吏トス

第五條 物品出納ハ現出納ノ日ヲ以テ年度ノ區分ヲ定ム

第六條 物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消耗及其他物品出納吏ノ保管ヲ離ルハ出納トシ買入生産及其他其保管ニ屬スルヲ納トス

第七條 物品出納吏ハ物品出納命令者ノ命令アルコアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第八條 共用物品ハ物品出納命令者ニ於テ共用物品取扱主任二名以上ヲ定メ之ヲ取扱ハシムヘシ
第九條 備品ノ定數定限ハ別ニ之ヲ定ム
第十條 定數定限外ノ備品ハ知事ノ許可ヲ得ルニアラサレハ出納スルコトヲ得ス

第二章 出納

第十一條 物品出納ハ左ノ書類ヲ以テ命令書トス

一 購入ニ係ル物品ハ購入決議書

一 請求ニ係ル物品ハ品目員數及使用ノ目的ヲ摘記セル使用者ノ請求書ニ物品出納命令者ノ檢印アルモノ

一 返納ニ係ル物品ハ品目員數及其事由ヲ詳記セル使用者ノ返納書ニ物品出納命令者ノ檢印アルモノ

一 不用物品若シハ修補ヲ加ヘ難キ毀損物品ノ燒棄却又ハ賣却ニ係ルモノハ品目員數及其事由ヲ詳記セル主任者ノ調査ニ物品出納命令者ノ檢印アルモノ

一 亡失ニ係ル物品ハ物品出納命令者ノ認定ヲ得タル證明書

第十二條 請求ノ物品ヲ交付スルキ備品ノ專用ニ係ルモノハ使用者其共用ニ係ルモノハ物品取扱主任ノ使用證書ヲ徵シ消耗品ハ使用者ノ領收證書ヲ徵スヘシ

第十三條 各自使用ニ屬セサル消耗品ニシテ概算前渡ヲ爲スノ必要アルモノハ物品出納命令者ニ於テ其取扱者ヲ定メ一ヶ月以内ノ需用概算高ヲ以テ假渡ヲ爲スコトヲ得

第十四條 前條假渡ヲ爲シタルトキハ取扱者ニ於テ翌月三日迄ニ支拂精算書ヲ調製シ物品出納命令者ニ差出スヘシ但支拂殘高ハ翌月ニ繰越支拂ヲナスコトヲ得

第十五條 物品出納吏ハ備品臺帳、消耗品出納簿、假渡簿、書留簿ヲ備ヘ備品臺帳ハ品目毎ニ購入ノ數量價格使用數殘高ヲ區分登記シ消耗品出納簿ハ品目毎ニ區分ヲ登記シ假渡簿ハ消耗品ノ假渡ニ係ル品目ヲ區分登記シ書留簿ハ不用物品及修補ヲ加ヘ難キ毀損物品ノ品目ヲ區分

登記スヘシ

第三章

保管

第十六條 凡貯藏ノ物品ハ物品出納吏各自專用ニ係ル物品ハ使用者共用ニ係ル物品ハ物品取扱主任ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第十七條 前條使用ノ物品ト雖物品出納命令者ハ監督ノ任アルモノトス

第十八條 貯藏ノ物品ハ品目員數ヲ明瞭ニシ倉庫其他ニ格護スヘシ

第十九條 物品ヲ亡失毀損セシトキハ品目數量及其事實ヲ證明シ物品出納命令者ノ認定ヲ得ヘシ

第二十條 第十六條ノ保管者故意怠惰ニ依リ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ之ニ對スル相當代價ヲ辨償セシムヘシ

第二十一條 保管ノ責ナキ者ト雖モ故意怠惰ニ依リ物品ヲ亡失毀損シタルトキ亦前條ニ同シ

第四章

出納證明

第二十二條 物品出納吏ハ毎年度物品出納計算表ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度四月三十日迄ニ差出スヘシ物品出納吏交替ノ場合ニ於テハ前任物品出納吏ハ其取扱中ニ係ル分ヲ打切十日以内ニ差出スヘシ

但本廳外ノ物品出納吏ハ物品出納命令者ヲ經由スヘシ

第二十三條 委任ヲ受ケタル物品出納命令者ハ物品出納吏ノ送付ニ係ル證明書類ニ就キ其品目ヲ調査シ及記簿ニ照合シ相違ナキトキハ其確實ヲ保證シテ十日以内ニ差出スヘシ

第二十四條 出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

- 一 受入物品ニ對シテハ物品受入明細書
- 一 消耗拂物品ニ對シテハ使用者ノ領收證書
- 一 賣却物品ニ對シテハ買受人ノ領收證書